
「第 11 次芦屋すこやか長寿プラン 21」策定に向けた
アンケート調査結果報告書

令和 8 年（2026 年）3 月

芦 屋 市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	2
2	調査の方法	2
3	回収状況	2
4	日常生活圏域別回答状況	3
5	性別・年代別回答状況	4
6	報告書の見方	5
7	調査結果の概要（各項の概要分析は追って作成）	6
II	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果	7
	調査対象者の基本属性	8
問1	あなた（あて名のご本人）のご家族や生活状況について	13
問2	からだを動かすことについて	21
問3	食べることについて	43
問4	毎日の生活について	60
問5	地域での活動について	92
問6	たすけあいについて	111
問7	健康について	127
問8	認知症について	148
問9	終活について	174
問10	災害時や緊急時の避難などについて	185
問11	今後のサービスの利用について	193
問12	自由意見	203
III	在宅介護実態調査の結果	207
	調査対象者の基本属性	208
A票	あて名のご本人について、おうかがいします	211
B票	主な介護者の方について、おうかがいします	256
IV	調査票	285

I 調査の概要

1 調査の目的

令和9年度（2027年度）からの「第11次芦屋すこやか長寿プラン21」の策定にあたり、介護サービスの質の向上を目的に、生活の実態や介護保険に対する考え・意向などを把握し、今後の高齢者福祉事業及び介護保険事業の充実に活用するとともに、次期計画の基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査の方法

(1) 調査地域

芦屋市内全域

(2) 調査対象および標本抽出方法

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査：令和8年1月1日現在で、市内在住の要介護認定を受けていない65歳以上の方から無作為抽出

在宅介護実態調査：令和8年1月1日現在で、市内在住の要支援・要介護認定者から無作為抽出 ※施設サービス利用者を除く

(3) 調査方法

郵送による配布、郵送またはインターネットによる回答。

(4) 調査期間

令和8年（2026年）1月13日～2月6日（2月20日まで延長）

3 回収状況

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

対象者数	3,000件
有効回収数	2,255件（286件）
有効回収率	75.2%（9.5%）

在宅介護実態調査

対象者数	2,000件
有効回収数	1,291件（125件）
有効回収率	64.6%（6.3%）

※（ ）は内インターネット回答の数

4 日常生活圏域別回答状況

日常生活圏域別の人口の構成比について、母集団（令和8年(2026年)1月31日現在の各地区の実際の人口のうち65歳以上の数値）と回答者の比率を比較すると、概ね実際の人口に近似した回答が得られています。

日常生活圏域	母集団		介護予防・日常生活圏域ニーズ調査回答者		在宅介護実態調査回答者	
	実数	比率	実数	比率	実数	比率
東山手生活圏域	21,868	23.5	542	24.0	303	23.5
西山手生活圏域	19,494	20.9	442	19.6	268	20.8
精道生活圏域	24,458	26.2	596	26.4	337	26.1
潮見生活圏域	11,101	11.9	242	10.7	127	9.8
打出浜生活圏域	16,293	17.5	406	18.0	244	18.9
無回答	—	—	27	1.2	12	0.9
合計	93,214	100.0	2,255	100.0	1,291	100.0

●各小学校区に該当する町名

日常生活圏域	町名
東山手生活圏域	六麓荘町、岩園町、楠町、翠ヶ丘町、親王塚町、朝日ヶ丘町、東山町
西山手生活圏域	剣谷、奥山、奥池町、奥池南町、山手町、山芦屋町、東芦屋町、西山町、三条町、月若町、西芦屋町、大原町、船戸町、松ノ内町、業平町、上宮川町、三条南町、前田町、清水町
精道生活圏域	茶屋之町、大榎町、公光町、川西町、津知町、竹園町、精道町、浜芦屋町、伊勢町、松浜町、平田北町、平田町、打出小槌町、宮塚町、若宮町、宮川町、浜町、西蔵町、呉川町
潮見生活圏域	若葉町、緑町、潮見町、陽光町、海洋町、南浜町、涼風町
打出浜生活圏域	春日町、打出町、南宮町、大東町、高浜町、新浜町、浜風町

5 性別・年代別回答状況

性別・年代別の人口の構成比について、母集団（令和8年(2026年)1月31日現在の各地区の実際の人口のうち65歳以上の数値）と回答者の比率を比較すると、ニーズ調査については、概ね実際の人口構成に近似した回答が得られていますが、在宅介護実態調査については、80歳以上の回答者比率が高くなっています。

性別	年代	母集団		介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 回答者		在宅介護実態調査 回答者	
		実数	比率	実数	比率	実数	比率
男性	65～69歳	2,651	9.1	172	7.7	19	1.5
	70～74歳	2,496	8.6	178	8.0	29	2.3
	75～79歳	2,958	10.2	221	9.9	78	6.1
	80～84歳	1,888	6.5	174	7.8	113	8.8
	85歳以上	1,837	6.3	144	6.5	217	17.0
女性	65～69歳	3,254	11.2	194	8.7	11	0.9
	70～74歳	3,199	11.0	238	10.7	49	3.8
	75～79歳	3,951	13.6	327	14.7	104	8.1
	80～84歳	2,905	10.0	258	11.6	232	18.1
	85歳以上	3,920	13.5	322	14.5	427	33.4
計（男性・女性）		29,059	100.0	2,228	100.0	1,279	100.0
無回答	65～69歳				0.0		0.0
	70～74歳				0.0		0.0
	75～79歳				0.0		0.0
	80～84歳				0.0		0.0
	85歳以上				0.0		0.0
	無回答	—	—	27	100.0	12	100.0
	計		0.0	27	100.0	12	100.0
合計	65～69歳	5,905	20.3	366	16.2	30	2.3
	70～74歳	5,695	19.6	416	18.4	78	6.0
	75～79歳	6,909	23.8	548	24.3	182	14.1
	80～84歳	4,793	16.5	432	19.2	345	26.7
	85歳以上	5,757	19.8	466	20.7	644	49.9
	無回答	—	—	27	1.2	12	0.9
	計	29,059	100.0	2,255	100.0	1,291	100.0

6 報告書の見方

- (1) 回答は、各質問の回答者数（ n ）を基数とした百分率（%）で示しています。
小数点第2位を四捨五入しているため、単一回答でも回答比率の合計が 100.0%にならない場合があります。
また、複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- (2) 回答者数（ n ）が少ない場合は、統計的に有意でなく、結果の利用に注意が必要です。
- (3) 図表において、紙面の都合上、回答選択肢の見出しを簡略化している場合があります。
- (4) クロス集計では、無回答及び集計母数の少ない属性を除いて表示しているため、全体数の n 値と属性ごとの回答数の合計が一致しない場合があります。

7 調査結果の概要

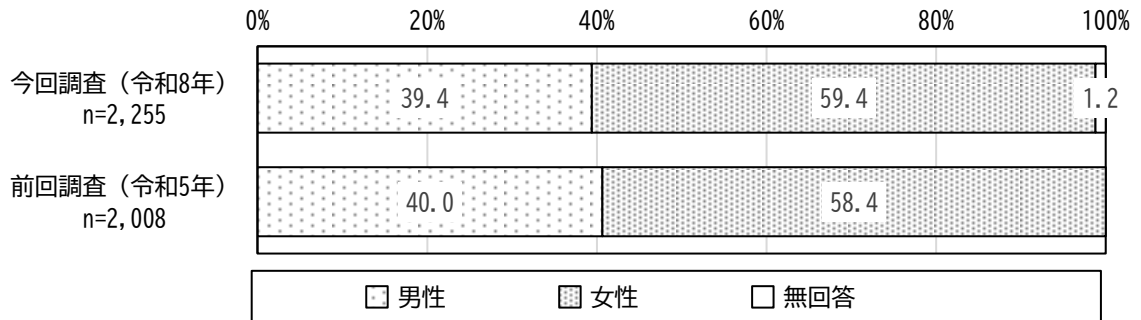
※調査結果概要の分析については別紙を参照

Ⅱ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果

調査対象者の基本属性

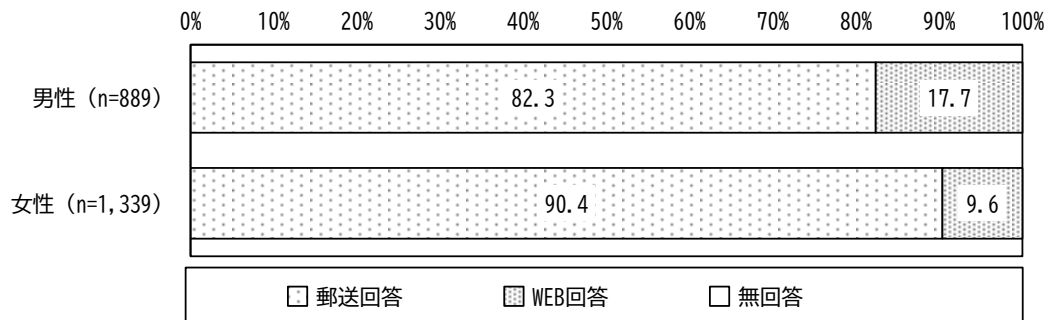
(1) 性別

性別は、「男性」が39.4%、「女性」が59.4%となっています。



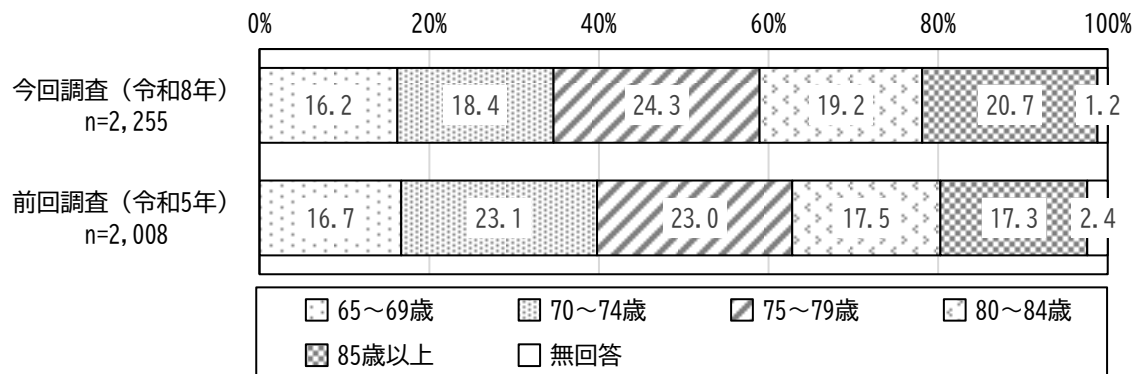
【性別・回答方法】

回答方法について性別にみると、男性で「WEB回答」が17.7%と比較的多くなっています。



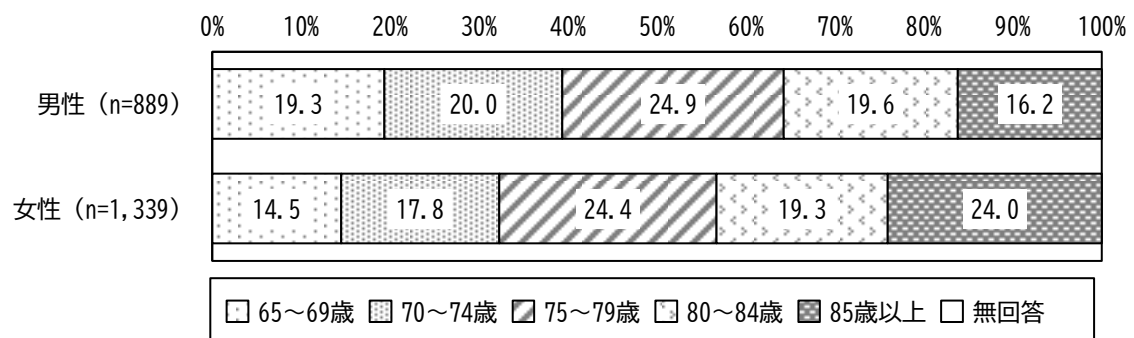
(2) 年齢

年齢は、「75～79歳」が24.3%と最も多く、65～74歳の前期高齢者は合計34.6%、75歳以上の後期高齢者は合計64.2%で、前回調査に比べて後期高齢者の割合が6.4ポイント増加しています。



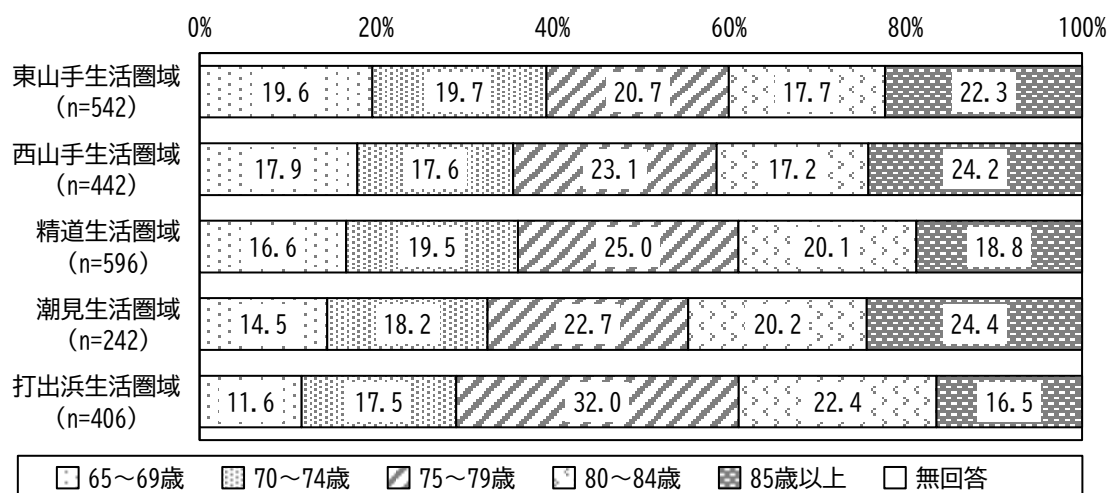
【性別】

性別にみると、女性で「85歳以上」の割合が24.0%と多くなっています。



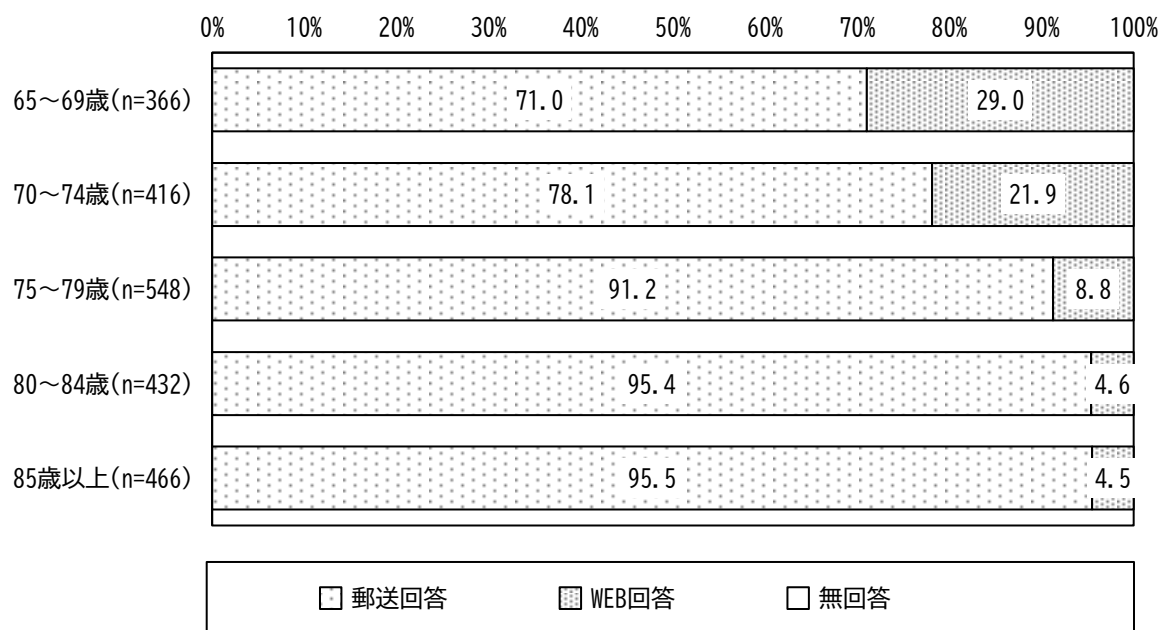
【居住地域別】

居住地域別にみると、打出浜生活圏域では後期高齢者の割合が70.9%と多くなっています。



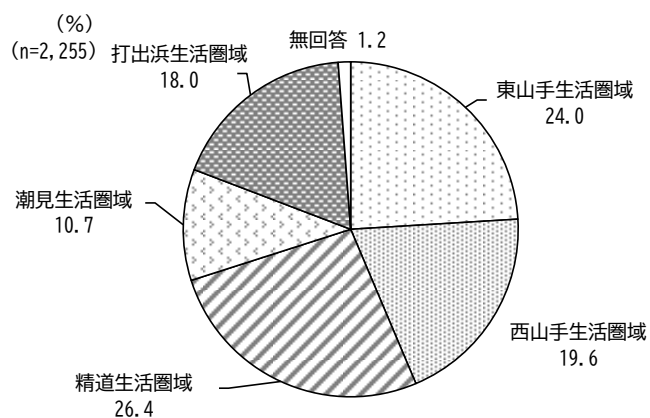
【年齢別・回答方法】

回答方法について年齢別にみると、年代が下がるほど「WEB回答」が多くなる傾向がみられ、65～69歳では29.0%となっています。



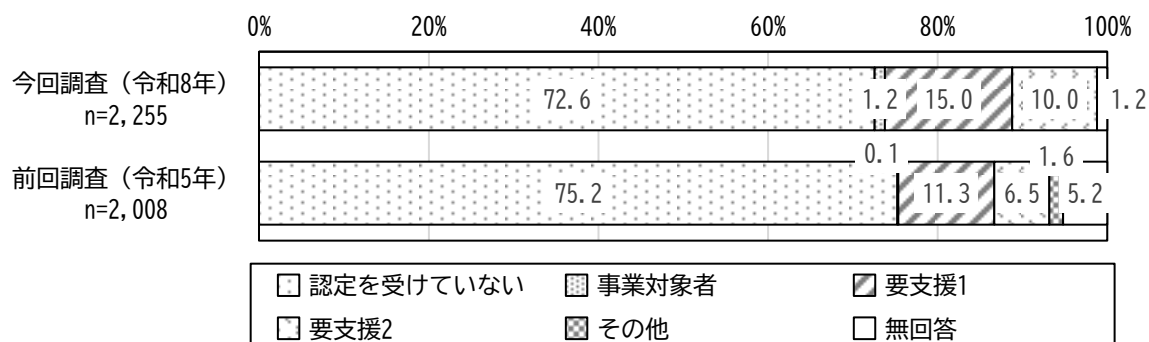
(3) 居住地域

居住地域は「精道生活圏域」が26.4%、「東山手生活圏域」が24.0%、「西山手生活圏域」が19.6%、「打出浜生活圏域」が18.0%、「潮見生活圏域」が10.7%となっています。



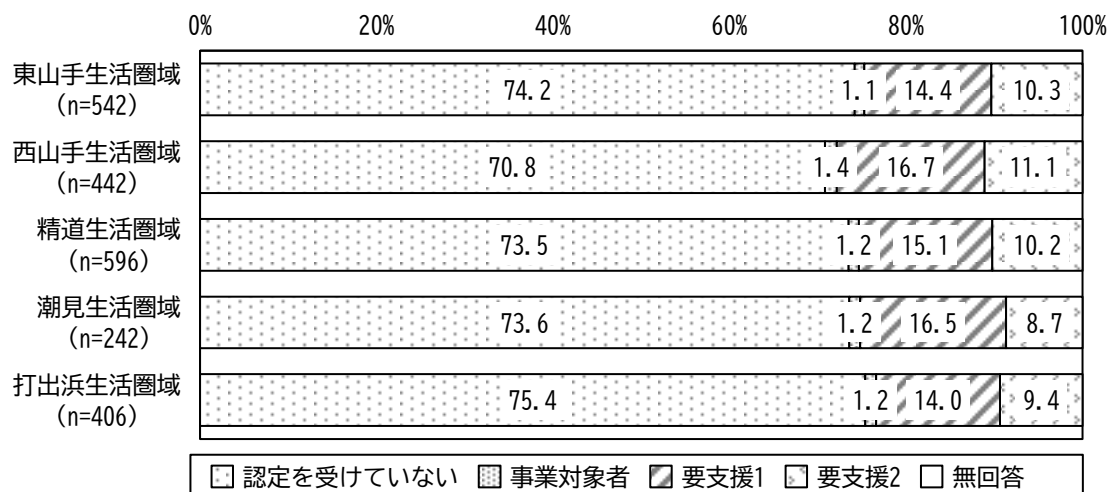
(4) 要介護認定状況

要介護認定状況については、「要支援1」が15.0%、「要支援2」が10.0%で、要支援認定者は合計25.0%で、前回調査に比べて7.2ポイント増加しています。



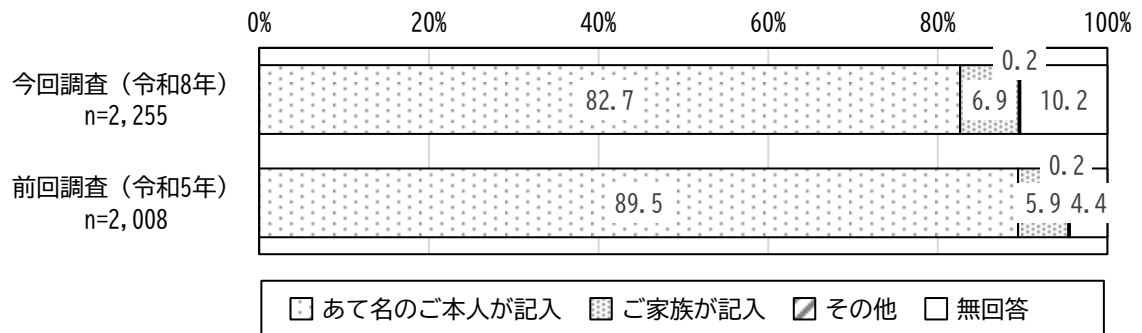
【居住地域別】

居住地域別にみると、西山手生活圏域では要支援認定者は27.8%と、他の生活圏域に比べてやや多くなっています。



(5) 調査票の記入者

調査票の記入者は、「あて名のご本人が記入」が82.7%と多く、「ご家族が記入」が6.9%となっています。



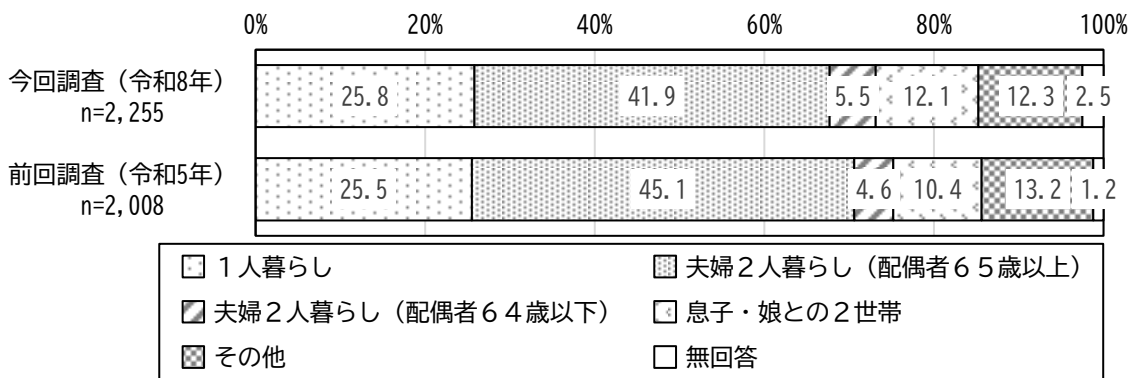
問1 あなた（あて名のご本人）のご家族や生活状況について

1) 家族構成

問1（1）家族構成をお教えてください（1つに○）

【全体】

家族構成は、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が41.9%と最も多く、次いで、「1人暮らし」が25.8%、「息子・娘との2世帯」が12.1%、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」が5.5%となっています。



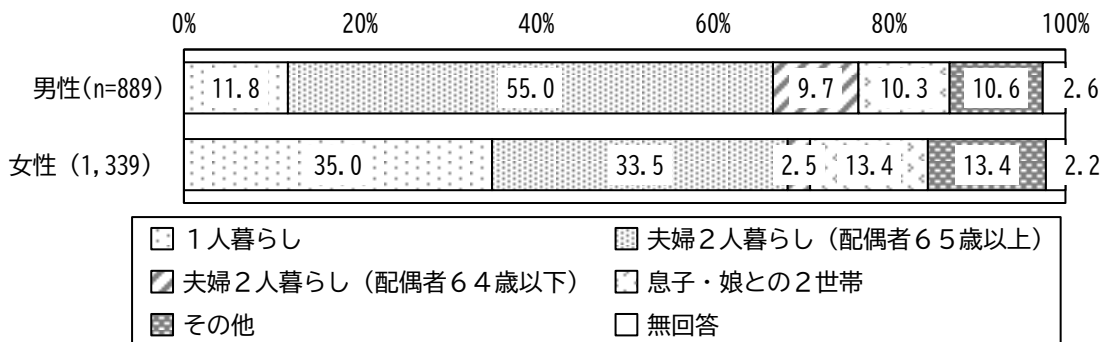
◇家族構成「その他」の主な回答

内容		
夫婦と単身の子ども	子どもと2人暮らし	夫婦と親
親と2人暮らし	兄弟姉妹・親族との同居	子ども・孫を含む多世代同居

など

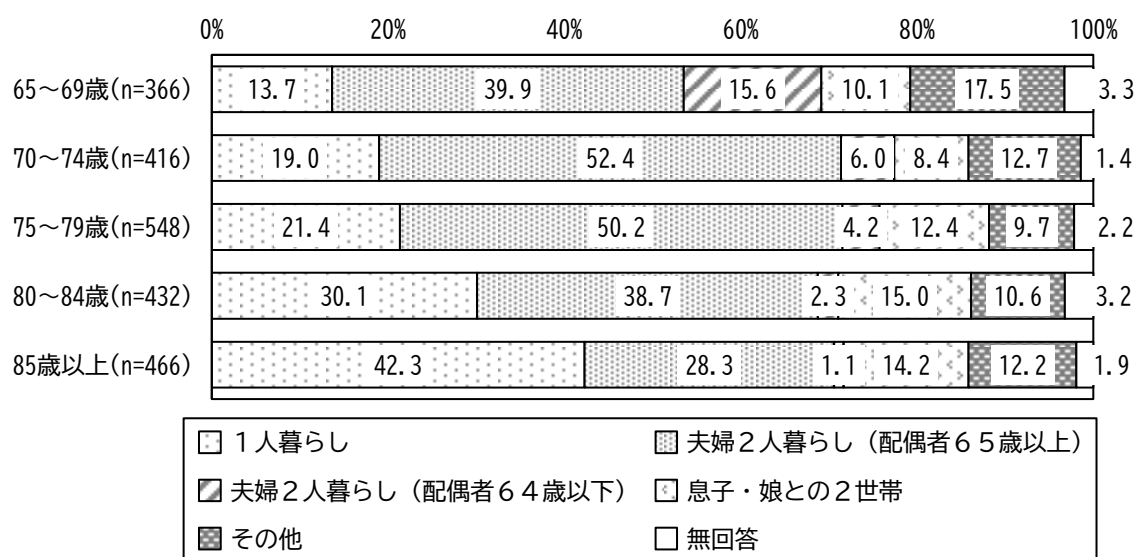
【性別】

性別にみると、女性では「1人暮らし」が35.0%と最も多く、男性では「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が55.0%と最も多くなっています。



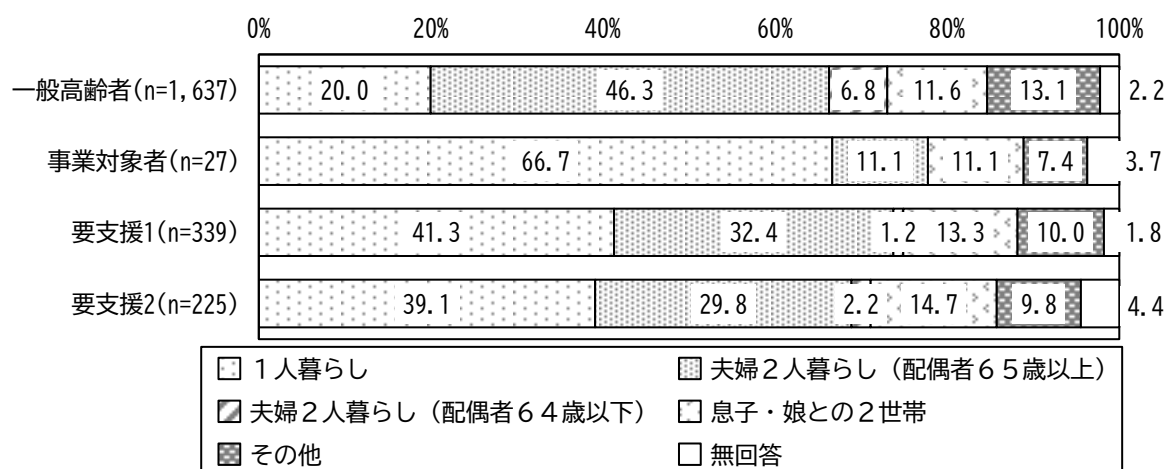
【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「1人暮らし」の割合は多くなり、85歳以上では42.3%となっています。



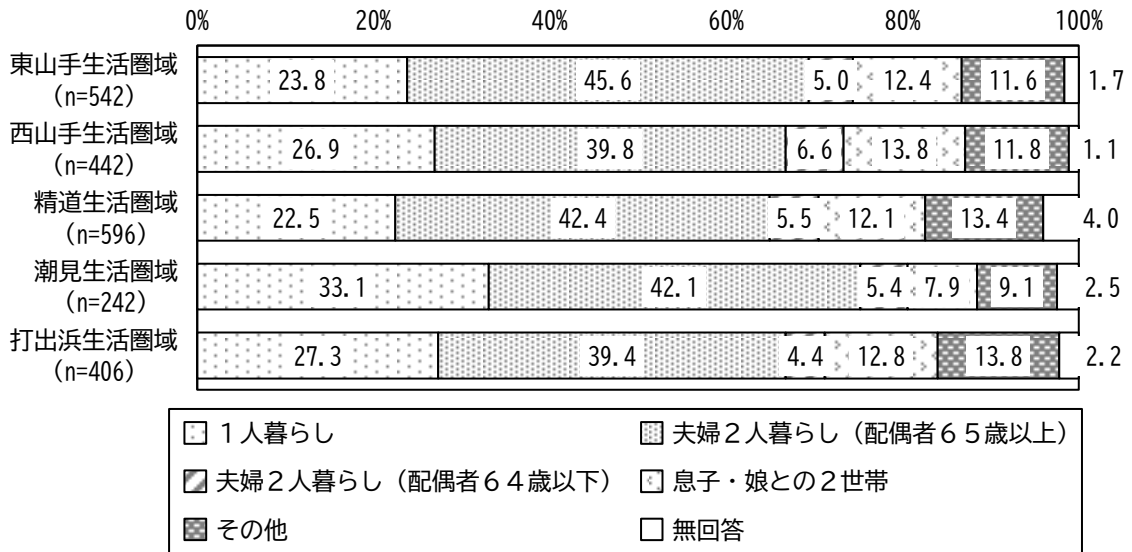
【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援認定者で「1人暮らし」が多い傾向がみられ、事業対象者では66.7%と多くなっています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、潮見生活圏域では「1人暮らし」が他の生活圏域と比べてやや多く、33.1%となっています。

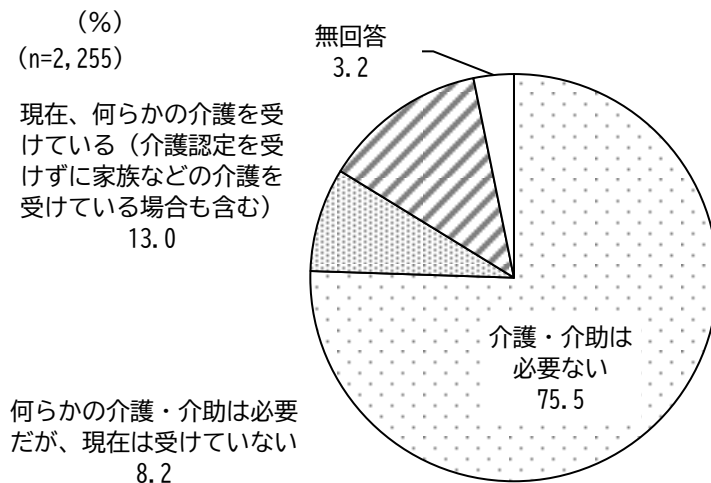


2) 介護・介助の必要性

問1 (2) 普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか (1つに○)

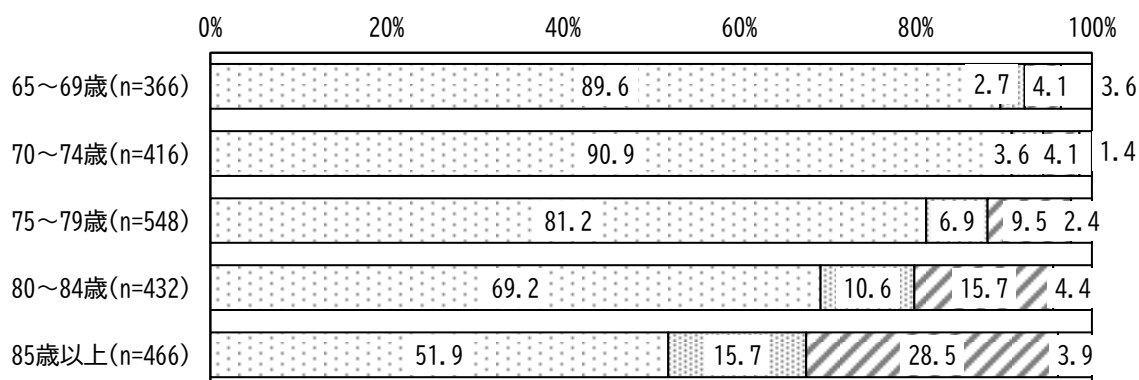
【全体】

介護・介助の必要性については、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が8.2%、「現在、何らかの介護を受けている (介護認定を受けずに家族等の介護を受けている場合も含む)」が13.0%で、介護・介助の必要な人は合計21.2%となっています。



【年齢別】

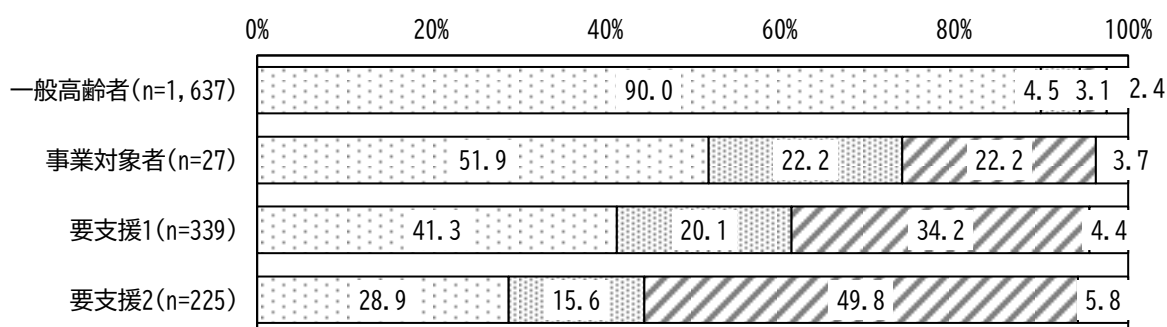
年齢別にみると、年齢が上がるにつれて介護・介助の必要な人の割合は多くなり、85歳以上では44.2%となっています。



- 介護・介助は必要ない
- 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
- 現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）
- 無回答

【認定状況別】

認定状況別にみると、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」人は事業対象者で22.2%、要支援1で20.1%、要支援2で15.6%みられます。



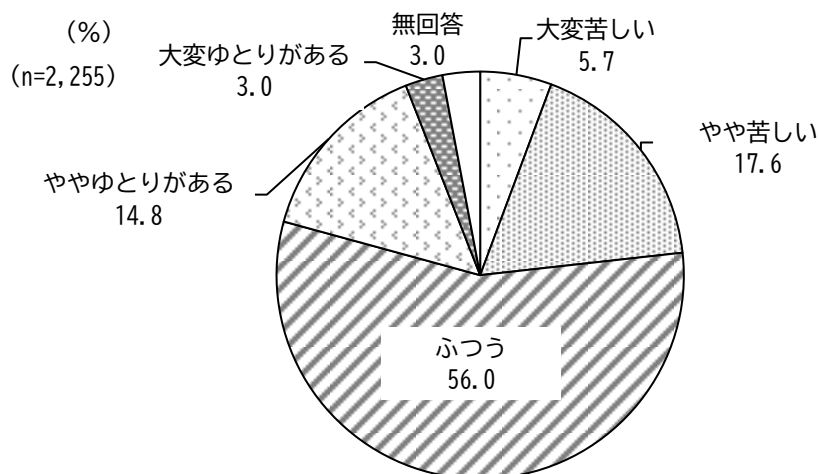
- 介護・介助は必要ない
- 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
- 現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）
- 無回答

3) 暮らしの状況

問1 (3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか (1つに○)

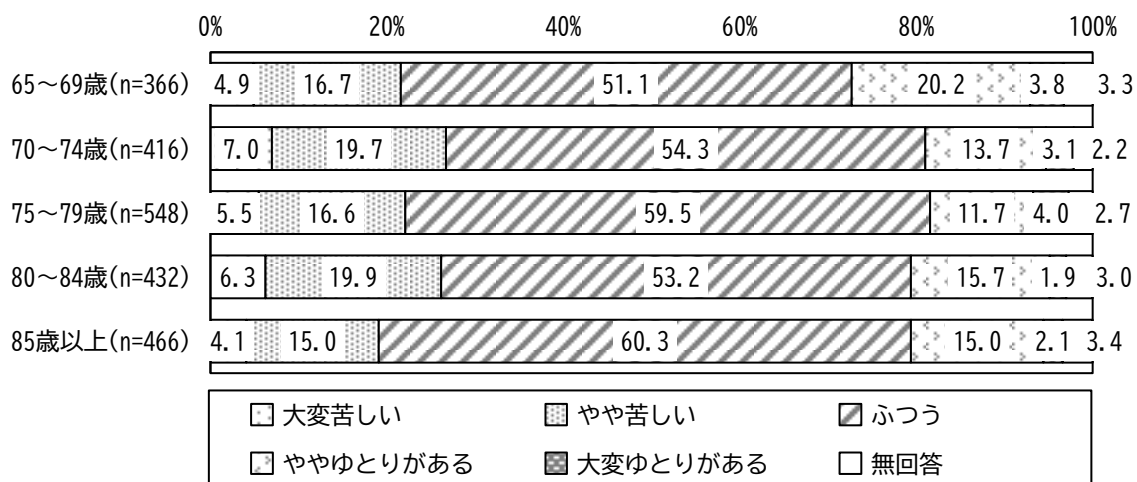
【全体】

現在の暮らしの状況については、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた『苦しい』が合計 23.3%、「大変ゆとりがある」と「ややゆとりがある」を合わせた『ゆとりがある』が合計 17.8%となっています。



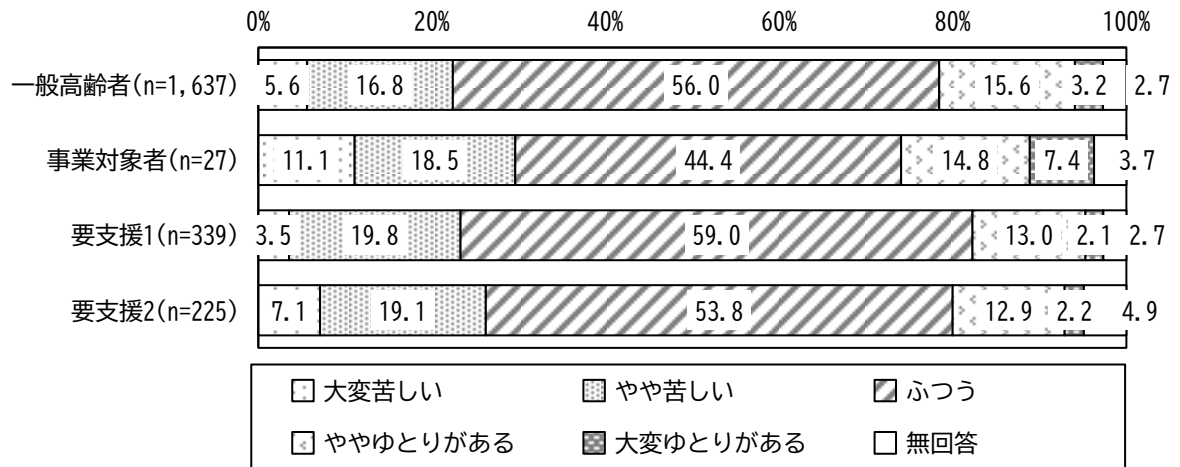
【年齢別】

年齢別にみると、65～69歳では『ゆとりがある』が24.0%とやや多くなっています。



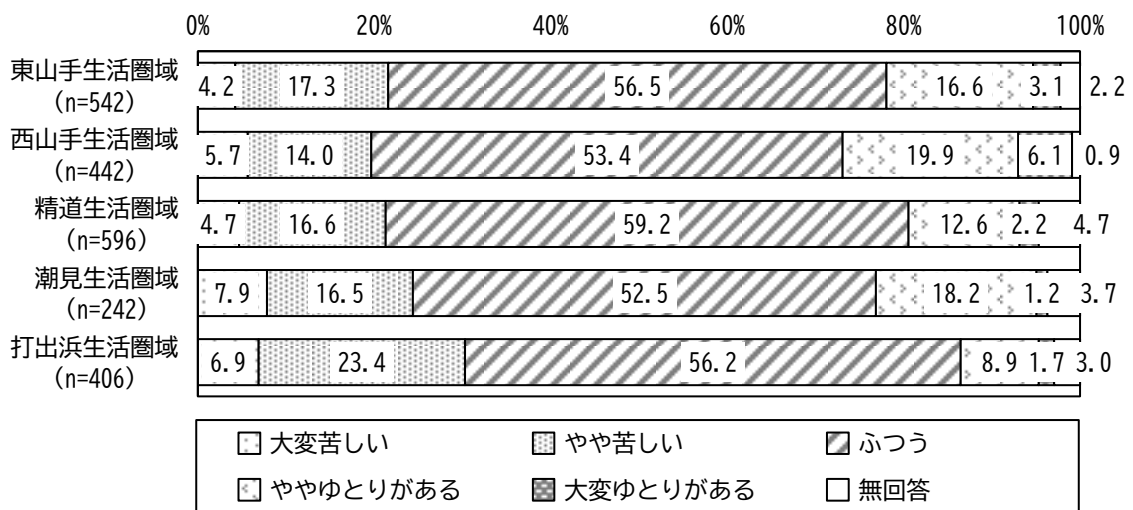
【認定状況別】

認定状況別にみると、事業対象者では『苦しい』が29.6%とやや多くなっています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、打出浜生活圏域では『苦しい』が30.3%と他の生活圏域に比べてやや多くなっています。

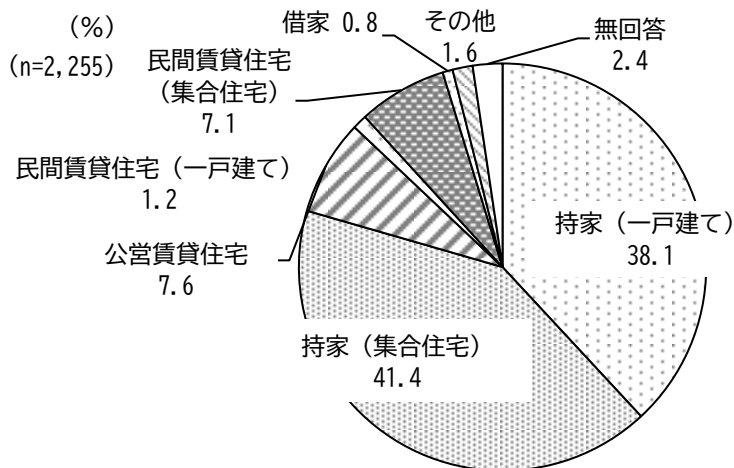


4) 住居形態

問1 (4) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか (1つに○)

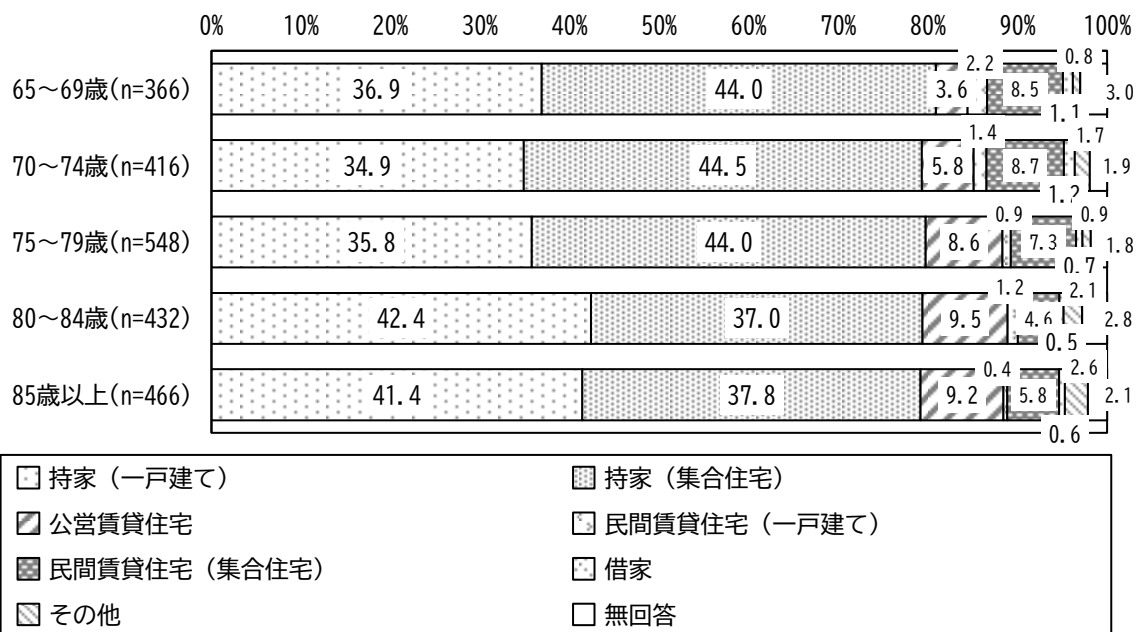
【全体】

住居形態は、「持家（集合住宅）」が41.4%と最も多く、次いで、「持家（一戸建て）」が38.1%となっています。



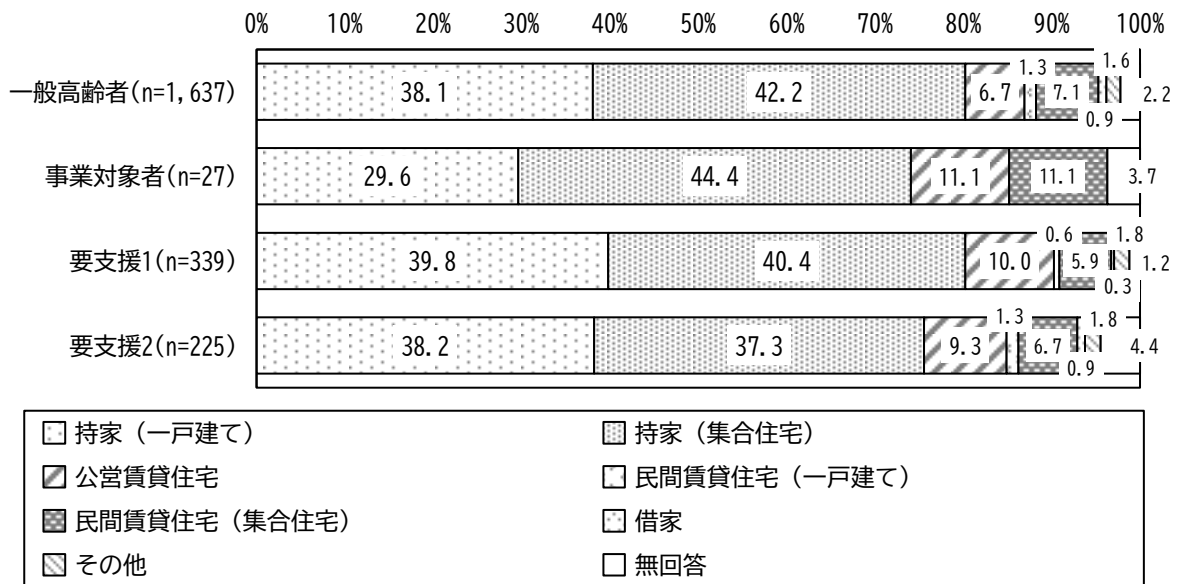
【年齢別】

年齢別にみると、以下の通り年齢による大きな差はみられません。



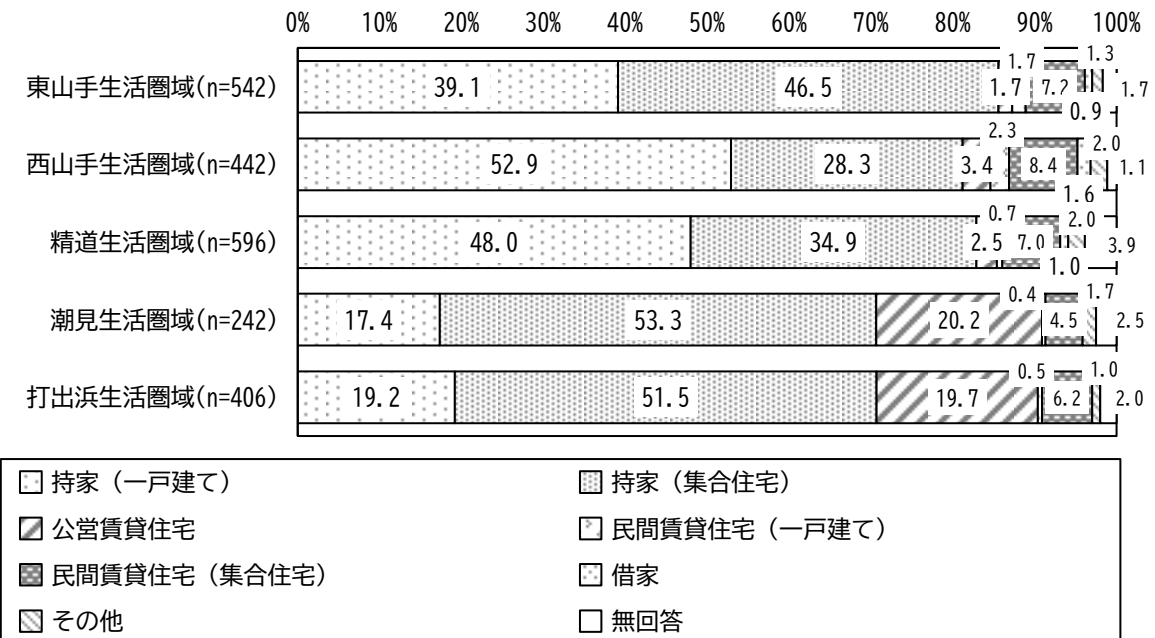
【認定状況別】

認定状況別にみると、事業対象者・要支援認定者では「公営賃貸住宅」が一般高齢者に比べてやや多くなっています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、潮見生活圏域、打出浜生活圏域では、他の生活圏域に比べて「持家 (一戸建て)」の割合が少なく、「持家 (集合住宅)」「公営賃貸住宅」が多くなっています。



問2 からだを動かすことについて

1) 運動機能の状況

問2 (1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか (1つに○)

問2 (2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか (1つに○)

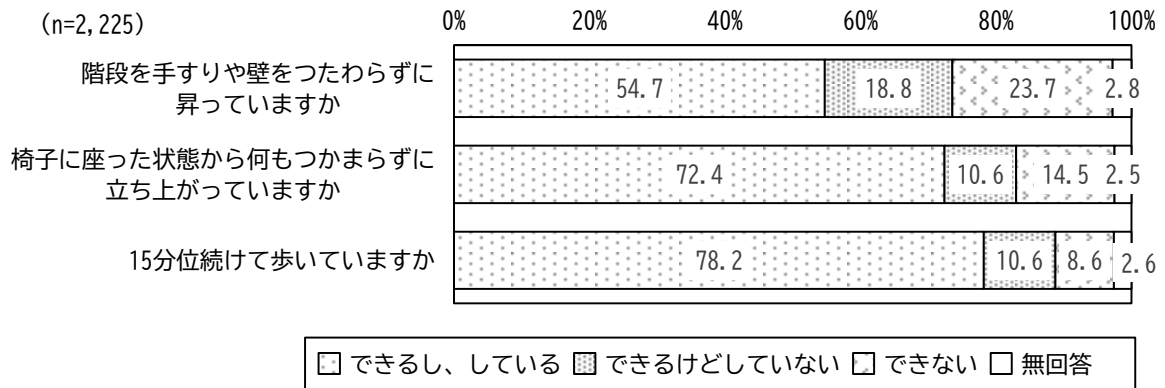
問2 (3) 15分位続けて歩いていますか (1つに○)

問2 (4) 過去1年間に転んだ経験がありますか (1つに○)

問2 (5) 転倒に対する不安は大きいですか (1つに○)

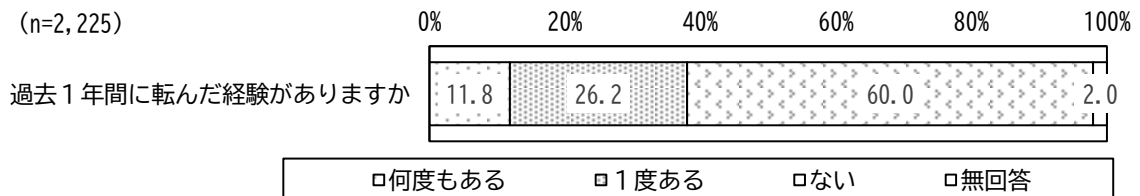
【全体】運動器の機能低下_リスク判定設問

「階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか」で、「できるけどしていない」が18.8%、「できない」が23.7%と多くなっています。



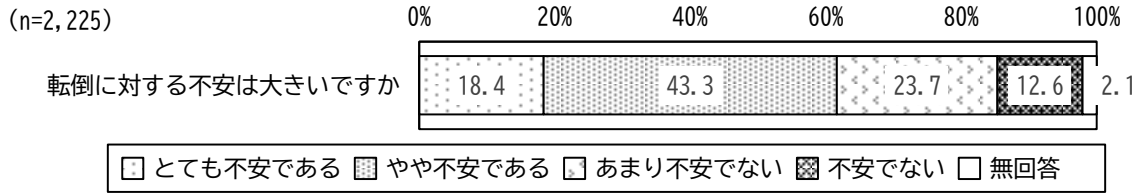
【全体】運動器の機能低下/転倒リスク_リスク判定設問

過去1年に転んだ経験があるかについては、「ない」が60.0%で最も多くなっていますが、「何度もある」と「1度ある」を合わせた『ある』が合計38.0%となっています。



【全体】運動器の機能低下_リスク判定設問/転倒リスク_関連設問

転倒に対する不安については、「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた『不安である』が合計 61.7%となっています。



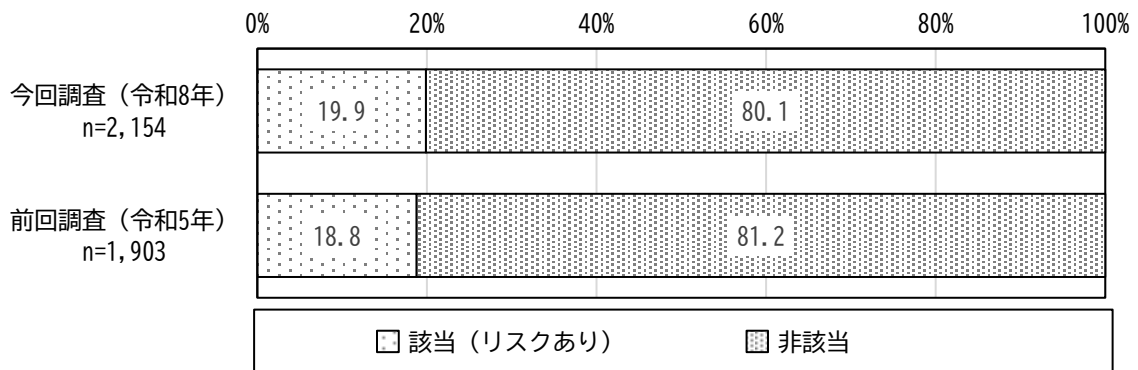
運動器の機能低下_リスク判定結果

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問2	(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	3. できない
	(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	3. できない
	(3) 15分位続けて歩いていますか	3. できない
	(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある
	(5) 転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である

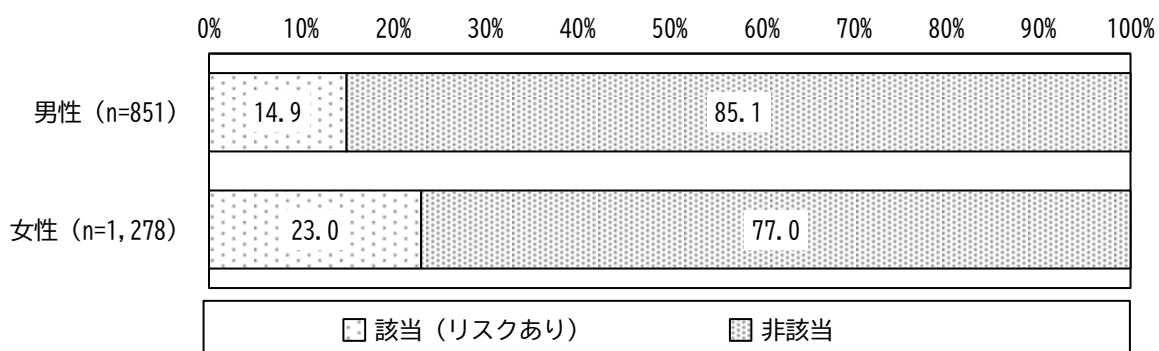
【全体】

『運動器の機能低下』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は 19.9%で、前回調査に比べて 1.1 ポイント増加しています。



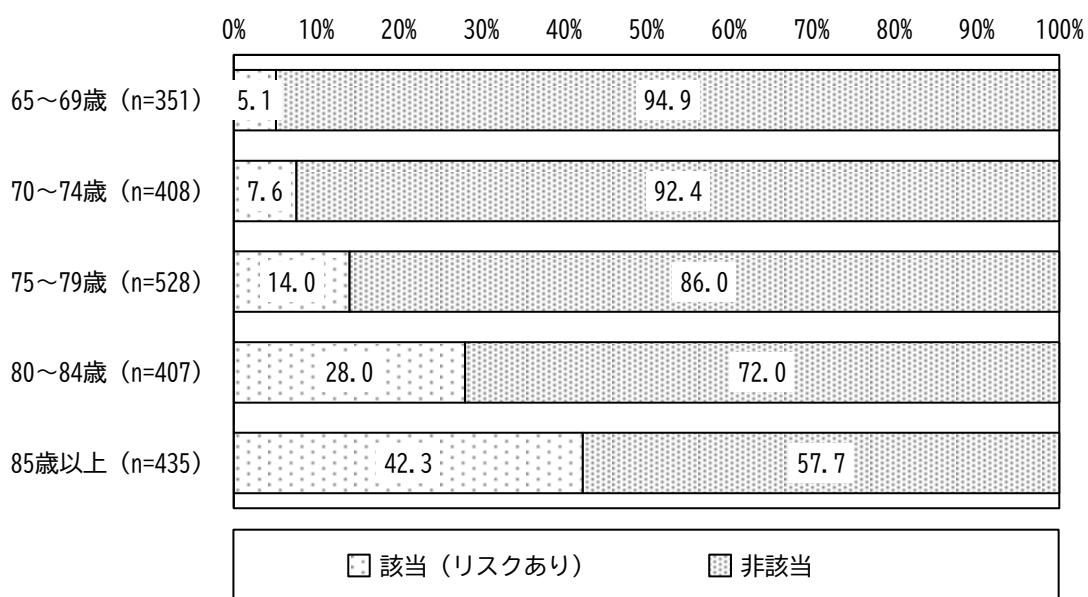
【性別】

性別にみると、該当者（リスクあり）は女性で 23.0%と、男性より 8.1 ポイント多くなっています。



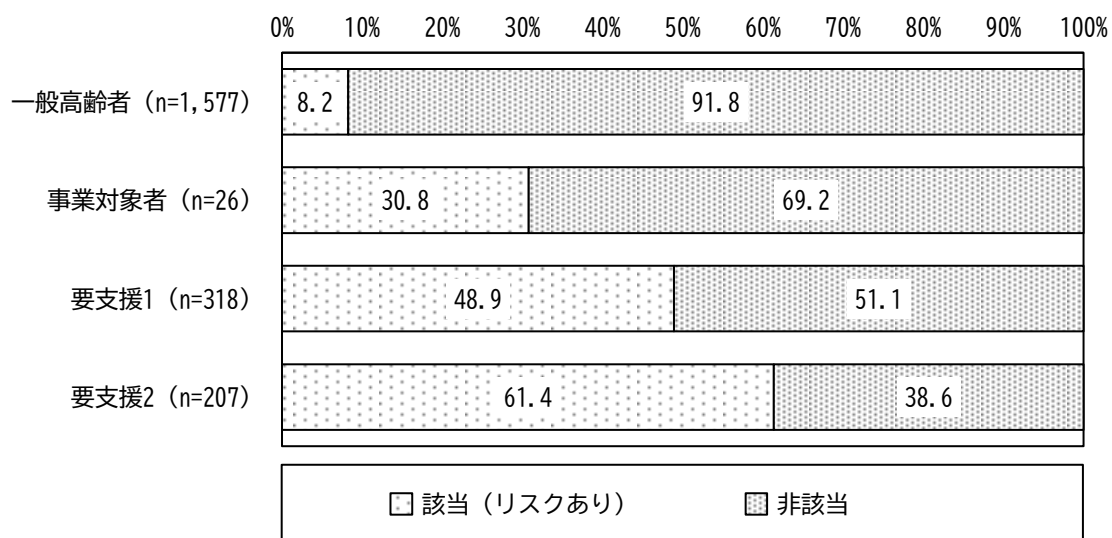
【年齢別】

年齢別にみると、該当者（リスクあり）は年代が上がるほど多くなり、65～69歳と85歳以上では 37.2 ポイントの差があります。



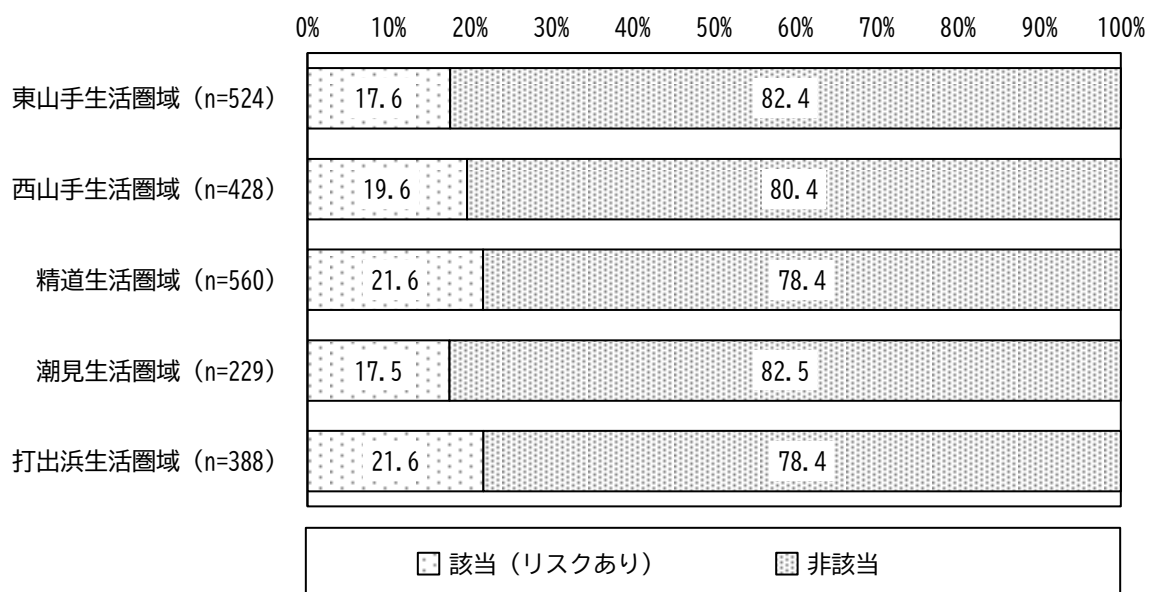
【認定状況別】

認定状況別にみると、該当者（リスクあり）は要支援2で61.4%と多く、一般高齢者と53.2ポイントの差があります。



【居住地域別】

居住地域別にみると、該当者（リスクあり）は精道生活圏域、打出浜生活圏域で21.6%とやや多くなっています。



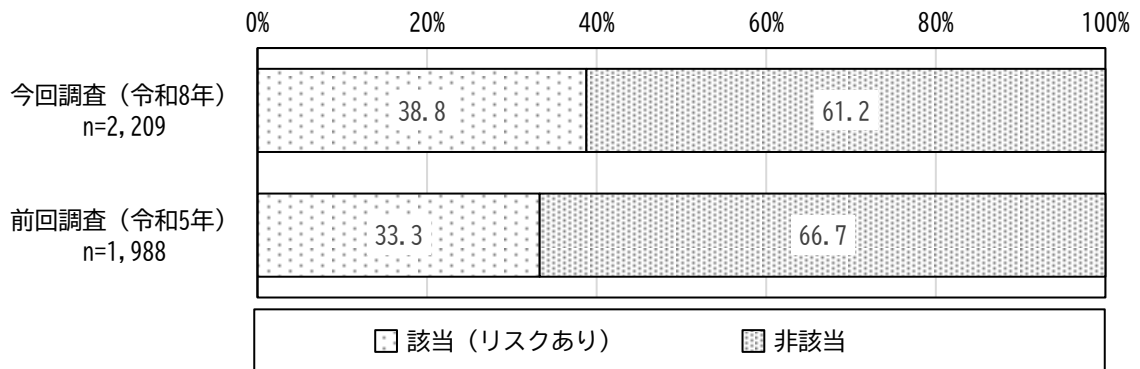
転倒リスク_リスク判定結果

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問2 (4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある

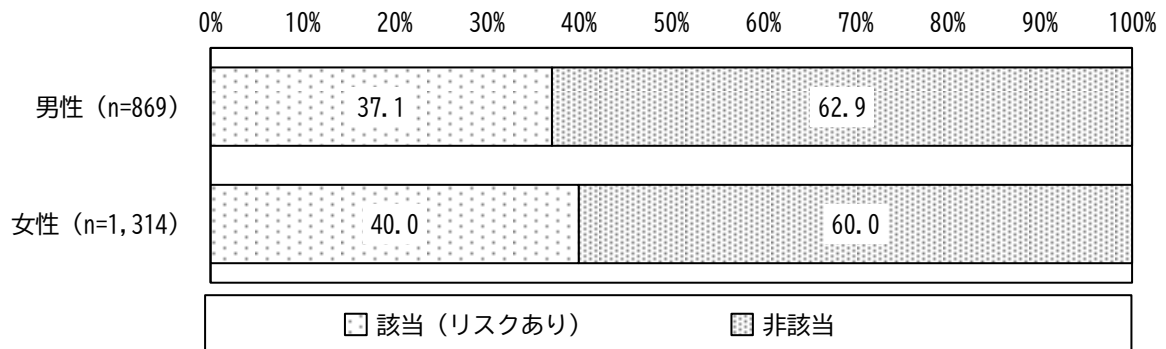
【全体】

『転倒リスク』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は38.8%で、前回調査に比べて5.5ポイント増加しています。



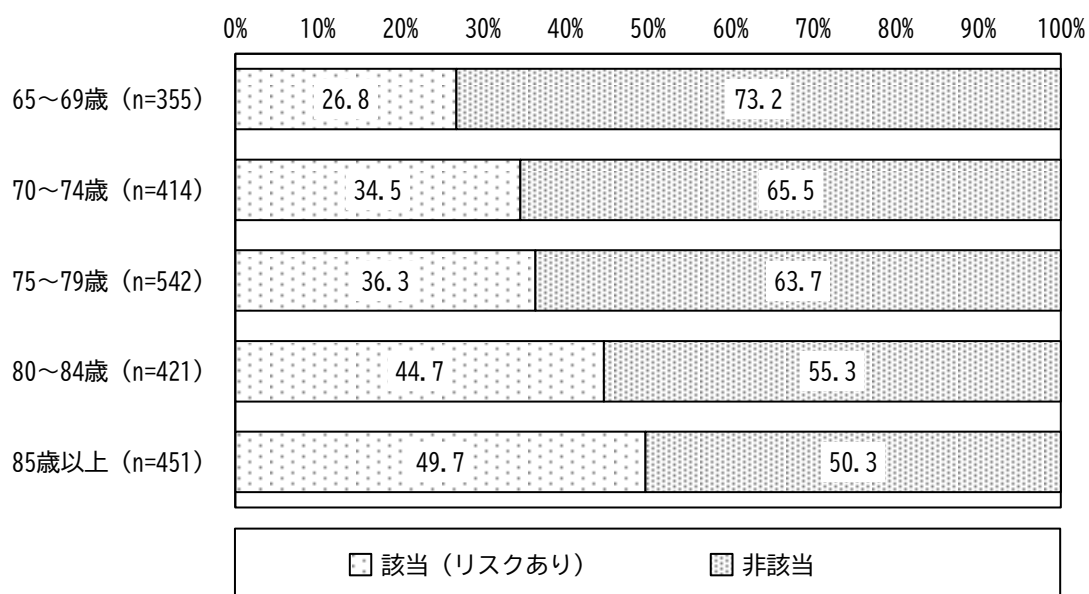
【性別】

性別にみると、該当者（リスクあり）は女性で40.0%と、男性より2.9ポイント多くなっています。



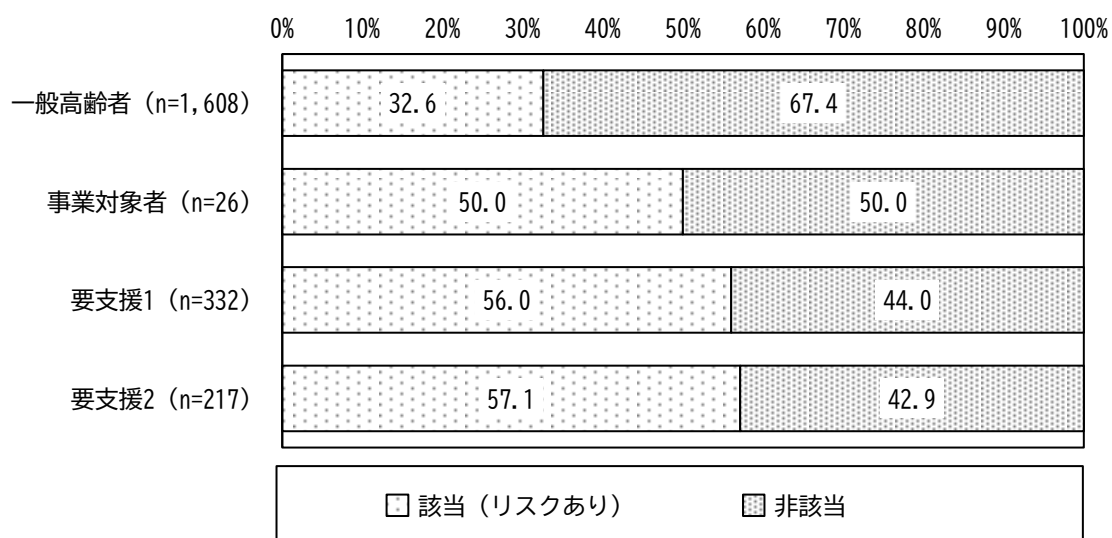
【年齢別】

年齢別にみると、該当者（リスクあり）は年代が上がるほど多くなり、65～69歳と85歳以上では22.9ポイントの差があります。



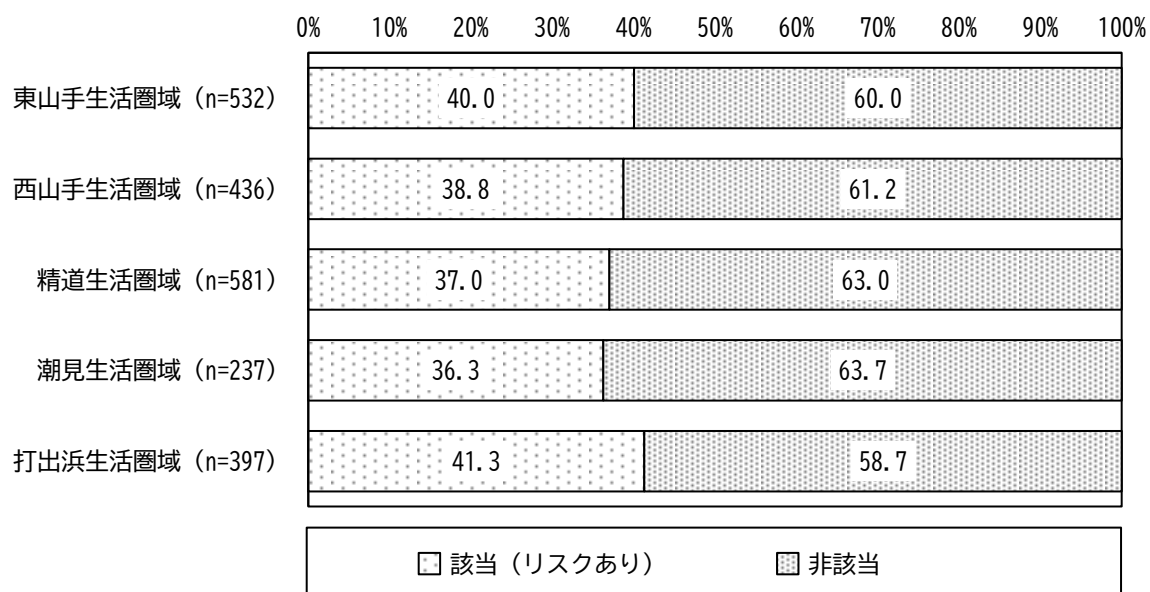
【認定状況別】

認定状況別にみると、該当者（リスクあり）は要支援者で6割弱と多く、一般高齢者と20ポイント以上の差があります。要支援1と要支援2では大きな差はみられません。



【居住地域別】

居住地域別にみると、該当者（リスクあり）に大きな差はみられませんが、東山手生活圏域、打出浜生活圏域で4割以上とやや多くなっています。



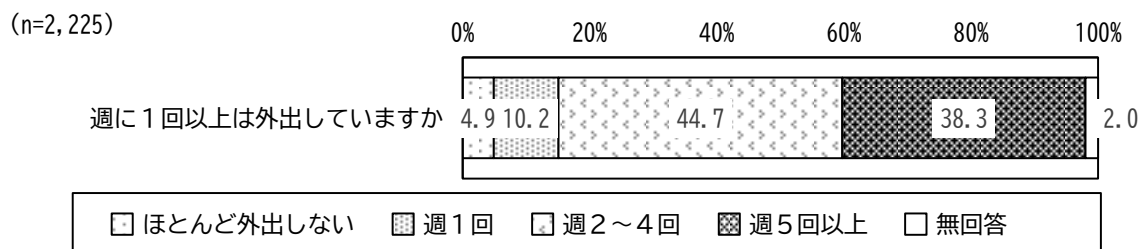
2) 外出の状況

問2 (6) 週に1回以上は外出していますか (1つに○)

問2 (7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか (1つに○)

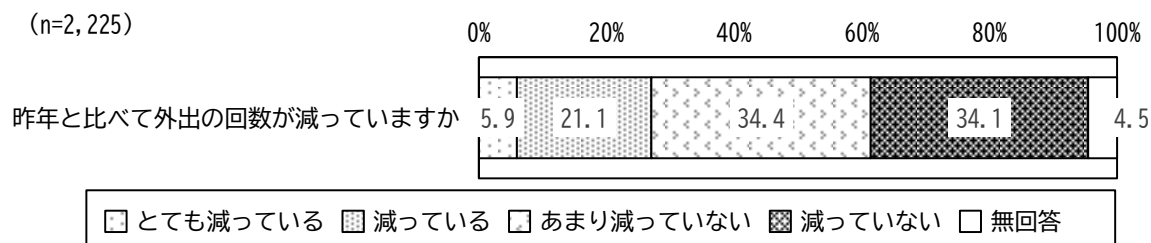
【全体】 閉じこもり傾向_リスク判定設問

1週間の外出回数については、「週2～4回」が44.7%と最も多く、次いで、「週5回以上」が38.3%、「週1回」が10.2%、「ほとんど外出しない」が4.9%となっています。



【全体】 閉じこもり傾向_関連設問

昨年と比べて外出の回数が減っているかについては、「とても減っている」と「減っている」を合わせた『減っている』が27.0%、「減っていない」と「あまり減っていない」を合わせた『減っていない』が68.5%となっています。



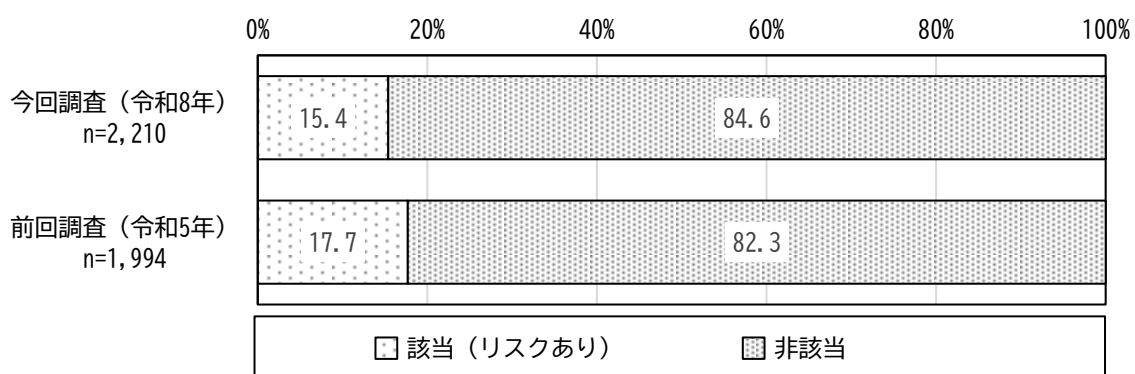
閉じこもり傾向_リスク判定結果

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問2 (6)	週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回

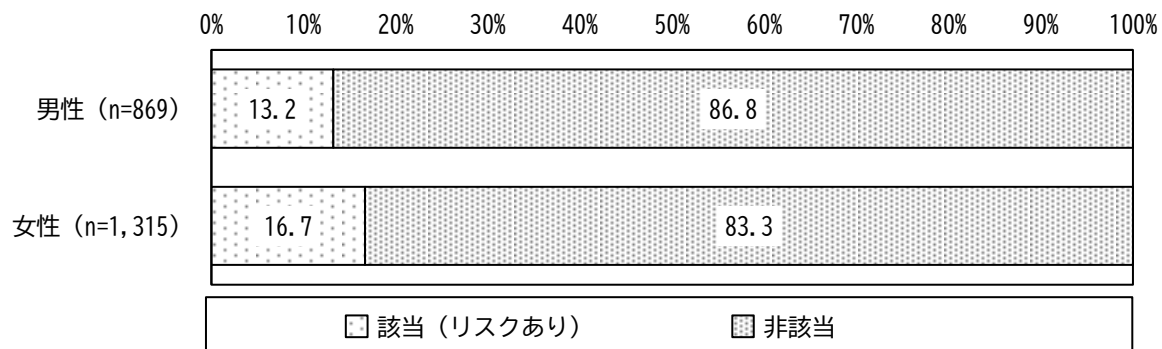
【全体】

『閉じこもり傾向』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は15.4%で、前回調査に比べて2.3ポイント減少しています。



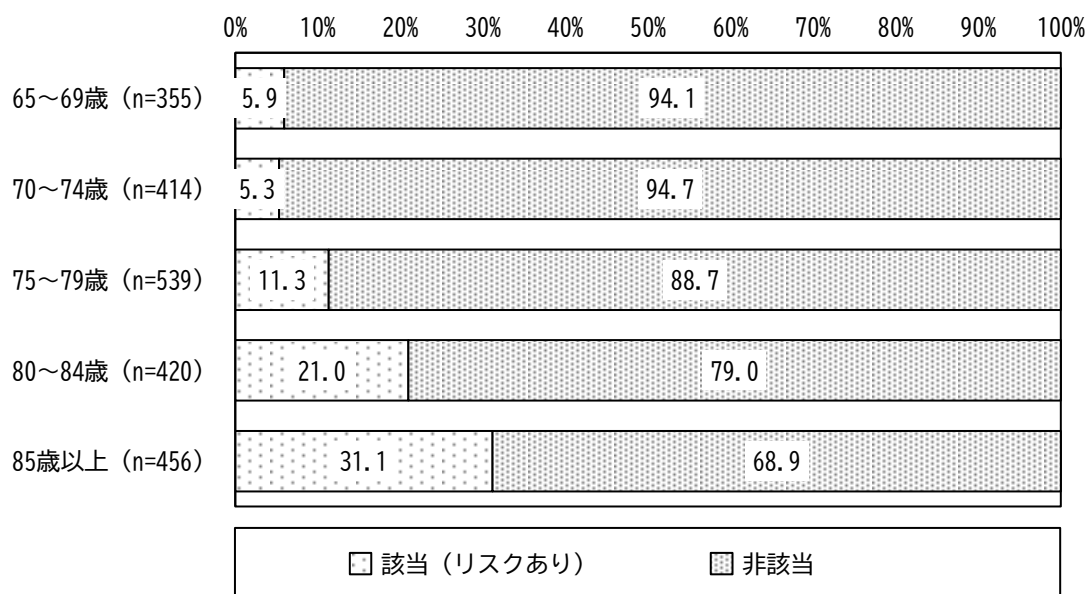
【性別】

性別にみると、該当者（リスクあり）は女性で16.7%と、男性より3.5ポイント多くなっています。



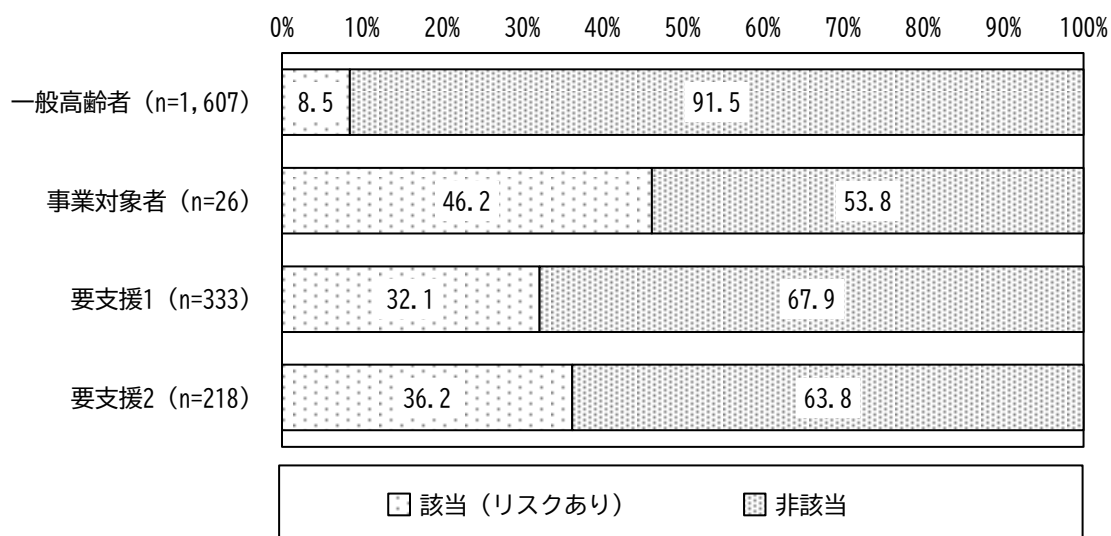
【年齢別】

年齢別にみると、該当者（リスクあり）は75歳以降年代が上がるほど多くなり、85歳以上では31.1%となっています。



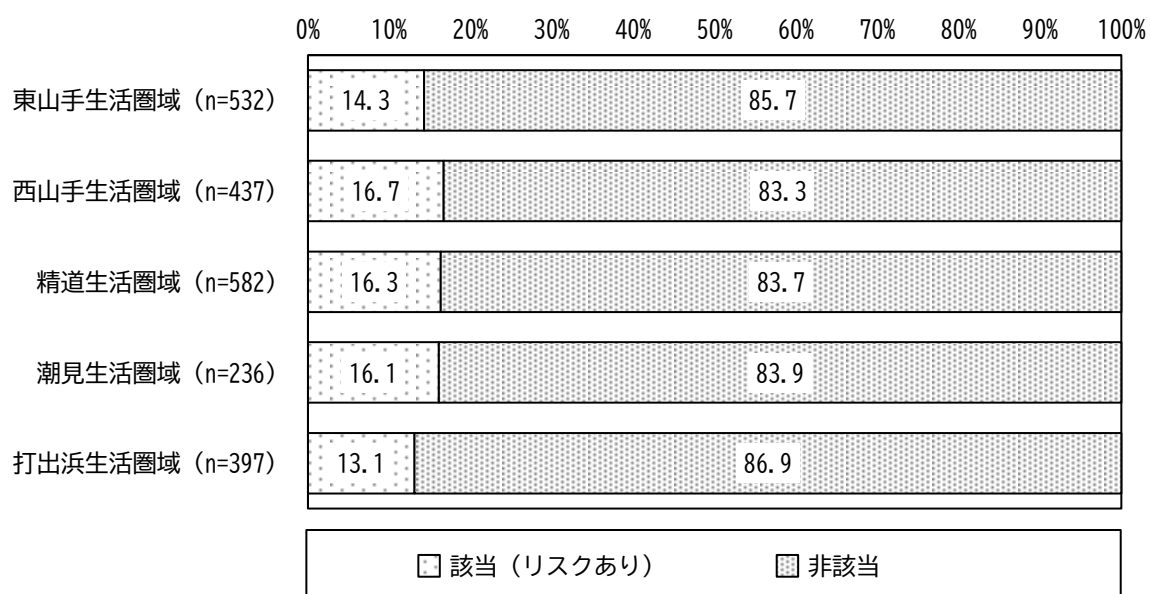
【認定状況別】

認定状況別にみると、該当者（リスクあり）は一般高齢者では8.5%と少ない一方で、要支援者では3割台、事業対象者では46.2%と半数に迫る人が該当者（リスクあり）となっています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、該当者（リスクあり）は、打出浜生活圏域で 13.1%とやや少なくなっています。

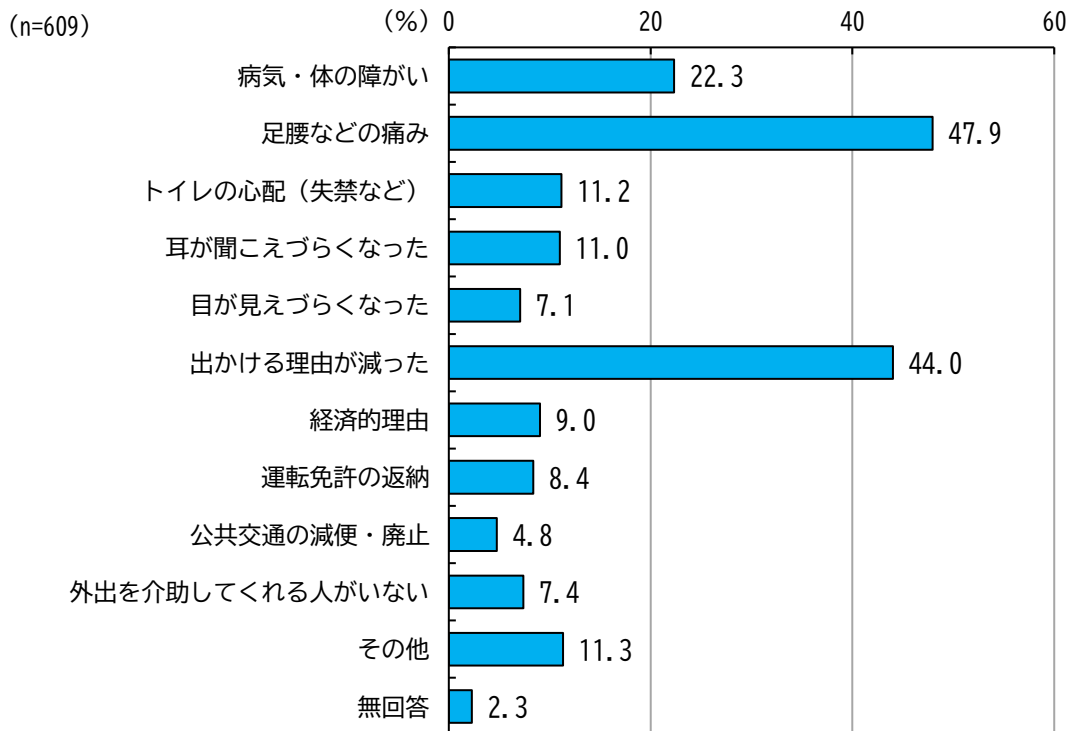


問2（7）で「1. とても減っている」または「2. 減っている」を選択した方

外出が減った理由は、次のどれですか（○は主なもの3つまで）

【全体】

外出が減った理由については、「足腰などの痛み」が47.9%と最も多く、次いで、「出かける理由が減った」が44.0%、「病気・体の障がい」が22.3%となっています。



◇外出が減った理由「その他」の主な回答

内 容	
体力の低下・疲れやすさ	転倒への不安
暑さ・寒さなど気候の影響	家族の介護や療養のため
仕事をやめたことによる生活の変化	外出意欲の低下、外出を面倒に感じる
タクシー利用など移動手段の変化	

など

【性別】

性別にみると、女性では「足腰などの痛み」が51.0%、男性では「出かける理由が減った」が46.7%で多くなっています。

	n	病気・体の障がい	足腰などの痛み	トイレの心配 (失禁など)	耳が聞こえづらくなった	目が見えづらくなった	出かける理由が減った	経済的理由	運転免許の返納	公共交通の減便・廃止	外出を介助してくれる人がいない	その他	無回答
全体	609	22.3	47.9	11.2	11.0	7.1	44.0	9.0	8.4	4.8	7.4	11.3	2.3
性別													
男性	197	24.9	41.6	11.2	11.7	8.1	46.7	7.1	13.7	4.1	6.1	11.2	2.5
女性	396	20.5	51.0	10.6	10.1	6.8	42.7	10.1	5.6	5.1	7.8	11.6	2.3

【年齢別】

年齢別にみると、80歳以上では「足腰などの痛み」が多く、65～79歳では「出かける理由が減った」が多くなっています。

	n	病気・体の障がい	足腰などの痛み	トイレの心配 (失禁など)	耳が聞こえづらくなった	目が見えづらくなった	出かける理由が減った	経済的理由	運転免許の返納	公共交通の減便・廃止	外出を介助してくれる人がいない	その他	無回答
全体	609	22.3	47.9	11.2	11.0	7.1	44.0	9.0	8.4	4.8	7.4	11.3	2.3
年齢													
65～69歳	44	9.1	25.0	4.5	4.5	2.3	52.3	22.7	0.0	4.5	0.0	29.5	2.3
70～74歳	74	25.7	40.5	4.1	4.1	6.8	41.9	16.2	8.1	1.4	2.7	21.6	2.7
75～79歳	115	25.2	38.3	9.6	5.2	6.1	51.3	9.6	7.0	6.1	5.2	8.7	2.6
80～84歳	152	27.6	59.9	15.1	11.8	7.2	36.2	7.2	16.4	5.3	6.6	9.2	1.3
85歳以上	208	17.3	51.9	12.0	16.3	9.1	44.7	4.8	4.8	4.8	12.0	7.2	2.9

【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援認定者では「足腰などの痛み」が多く、一般高齢者では「出かける理由が減った」が多くなっています。

	n	病気・体の障がい	足腰などの痛み	トイレの心配 (失禁など)	耳が聞こえづらくなった	目が見えづらくなった	出かける理由が減った	経済的理由	運転免許の返納	公共交通の減便・廃止	外出を介助してくれる人がいない	その他	無回答	
全体	609	22.3	47.9	11.2	11.0	7.1	44.0	9.0	8.4	4.8	7.4	11.3	2.3	
認定状況	一般高齢者	283	13.1	40.6	9.9	7.1	4.6	51.2	14.1	9.2	3.2	2.8	16.6	3.5
	事業対象者	13	30.8	23.1	15.4	0.0	0.0	61.5	23.1	0.0	15.4	23.1	7.7	0.0
	要支援1	175	27.4	57.1	10.9	18.3	10.9	37.7	4.0	7.4	5.1	6.3	6.3	1.1
	要支援2	122	33.6	54.1	12.3	9.0	9.0	34.4	3.3	8.2	6.6	17.2	7.4	1.6

【居住地域別】

居住地域別にみると、他の生活圏域に比べて、打出浜生活圏域では、「トイレの心配（失禁など）」が19.3%、潮見生活圏域では「外出を介助してくれる人がいない」が13.0%とやや多くなっています。

	n	病気・体の障がい	足腰などの痛み	トイレの心配 (失禁など)	耳が聞こえづらくなった	目が見えづらくなった	出かける理由が減った	経済的理由	運転免許の返納	公共交通の減便・廃止	外出を介助してくれる人がいない	その他	無回答	
全体	609	22.3	47.9	11.2	11.0	7.1	44.0	9.0	8.4	4.8	7.4	11.3	2.3	
圏域	東山手生活圏域	134	21.6	35.1	8.2	8.2	10.4	42.5	9.7	11.2	1.5	7.5	14.2	3.7
	西山手生活圏域	120	25.0	57.5	8.3	13.3	9.2	45.8	5.8	5.8	4.2	5.8	10.8	1.7
	精道生活圏域	161	21.7	52.2	9.9	12.4	6.2	44.7	11.2	7.5	1.2	6.2	11.2	3.1
	潮見生活圏域	69	17.4	58.0	8.7	13.0	4.3	43.5	7.2	5.8	7.2	13.0	8.7	0.0
	打出浜生活圏域	109	22.0	40.4	19.3	6.4	4.6	43.1	10.1	10.1	12.8	6.4	11.0	1.8

【閉じこもり傾向別】

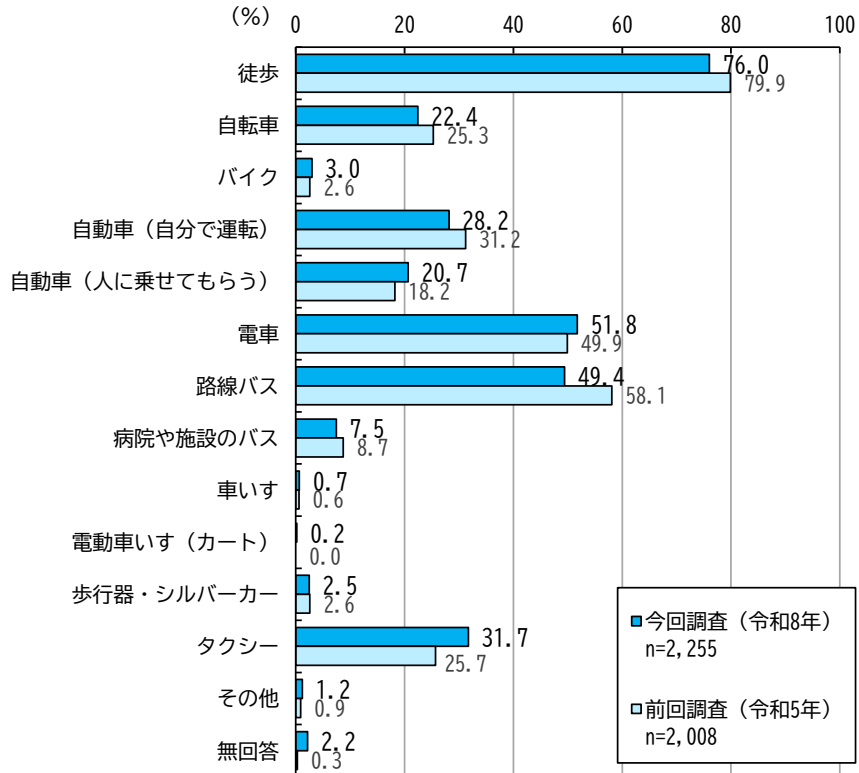
閉じこもり傾向別にみると、リスクありの人で「外出を介助してくれる人がいない」が 13.0%と多くなっています。

	n	病気・体の障がい	足腰などの痛み	トイレの心配 (失禁など)	耳が聞こえづらくなった	目が見えづらくなった	出かける理由が減った	経済的理由	運転免許の返納	公共交通の減便・廃止	外出を介助してくれる人がいない	その他	無回答	
全体	609	22.3	47.9	11.2	11.0	7.1	44.0	9.0	8.4	4.8	7.4	11.3	2.3	
閉じこもり傾向	該当（リスクあり）	231	27.3	50.6	12.1	12.1	8.7	42.4	8.7	6.5	3.9	13.0	8.7	1.3
	非該当	376	19.4	46.3	10.6	10.4	6.1	44.7	9.3	9.6	5.3	4.0	13.0	2.9

問2（8）外出する際の移動手段は何ですか（〇はいくつでも）

【全体】

外出時の移動手段については、「徒歩」が76.0%と最も多く、次いで、「電車」が51.8%、「路線バス」が49.4%となっています。前回調査に比べて、「路線バス」が8.7ポイント減少し、「タクシー」が6.0ポイント増加しています。



【性別】

性別にみると、女性では「自動車（人に乗せてもらえう）」「路線バス」「タクシー」、男性では「自転車」「自動車（自分で運転）」などが比較的多くなっています。

	n	徒歩	自転車	バイク	自動車（自分で運転）	自動車（人に乗せてもらえう）	電車	路線バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす（カート）	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他	無回答
全体	2255	76.0	22.4	3.0	28.2	20.7	51.8	49.4	7.5	0.7	0.2	2.5	31.7	1.2	2.2
性別															
男性	889	78.6	28.1	5.4	45.0	11.7	54.0	42.7	5.4	0.6	0.2	0.6	24.9	1.2	2.5
女性	1339	74.4	19.0	1.3	17.4	26.9	50.5	53.5	8.7	0.7	0.1	3.7	36.2	1.0	1.9

【年齢別】

年齢別にみると、「病院や施設のバス」、「歩行器・シルバーカー」、「タクシー」は、年齢が上がるにつれてその割合が増加しています。

	n	徒歩	自転車	バイク	自動車（自分で運転）	自動車（人に乗せてもらえう）	電車	路線バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす（カート）	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他	無回答
全体	2255	76.0	22.4	3.0	28.2	20.7	51.8	49.4	7.5	0.7	0.2	2.5	31.7	1.2	2.2
年齢															
65～69歳	366	84.2	29.8	3.8	49.7	20.5	63.4	40.4	3.0	0.0	0.0	0.3	16.9	0.0	3.0
70～74歳	416	84.1	30.3	6.3	46.2	19.0	63.9	46.9	5.5	0.2	0.2	0.2	20.2	0.2	0.7
75～79歳	548	76.8	28.1	2.7	29.7	17.5	53.8	53.1	6.9	0.5	0.2	1.1	27.7	0.5	1.5
80～84歳	432	72.0	17.4	2.1	16.7	18.5	46.5	55.1	9.3	0.5	0.2	3.2	38.4	1.6	3.7
85歳以上	466	65.5	8.6	0.4	5.2	28.8	34.8	48.3	11.4	1.7	0.2	7.1	51.9	3.0	1.9

【認定状況別】

認定状況別にみると、「タクシー」が要支援認定者では5割を超え、一般高齢者に比べて30.0ポイント以上多くなっています。

	n	徒歩	自転車	バイク	自動車（自分で運転）	自動車（人に乗せてもらえう）	電車	路線バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす（カート）	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他	無回答
全体	2255	76.0	22.4	3.0	28.2	20.7	51.8	49.4	7.5	0.7	0.2	2.5	31.7	1.2	2.2
認定状況															
一般高齢者	1637	80.6	28.3	3.8	36.0	18.0	58.0	49.1	5.2	0.2	0.0	0.2	23.8	0.4	1.8
事業対象者	27	63.0	25.9	0.0	14.8	14.8	48.1	59.3	14.8	0.0	0.0	0.0	37.0	3.7	3.7
要支援1	339	68.7	7.7	0.9	7.4	27.4	36.6	55.5	14.2	1.2	0.3	7.1	53.4	2.4	2.9
要支援2	225	56.0	3.1	0.0	6.2	32.4	30.7	39.6	12.4	3.1	1.3	12.0	56.0	4.0	2.7

【居住地域別】

居住地域別にみると、潮見生活圏域では「路線バス」が 68.2%、その他の生活圏域では「徒歩」が最も多くなっています。

	n	徒歩	自転車	バイク	自動車 (自分で運転)	自動車 (人に乗せてもらう)	電車	路線バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす (カート)	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他	無回答	
全体	2255	76.0	22.4	3.0	28.2	20.7	51.8	49.4	7.5	0.7	0.2	2.5	31.7	1.2	2.2	
圏域	東山手生活圏域	542	76.6	12.2	3.0	30.3	21.8	49.4	58.7	5.5	0.4	0.0	1.5	39.1	0.7	1.7
	西山手生活圏域	442	75.6	10.4	2.7	33.3	21.3	51.8	39.6	5.4	0.2	0.2	3.2	35.7	0.7	0.9
	精道生活圏域	596	80.4	28.7	1.3	27.5	22.8	56.0	37.1	7.4	1.0	0.3	2.0	28.9	1.7	3.2
	潮見生活圏域	242	66.9	30.2	4.1	26.4	18.6	48.8	68.2	17.4	0.4	0.0	3.7	25.6	2.9	2.1
	打出浜生活圏域	406	75.1	36.5	4.9	23.2	17.5	51.0	53.7	6.2	1.0	0.2	3.0	25.1	0.2	2.5

【閉じこもり傾向別】

閉じこもり傾向別にみると、リスクありの人では「タクシー」が5割を超えて2番目に多くなっています。

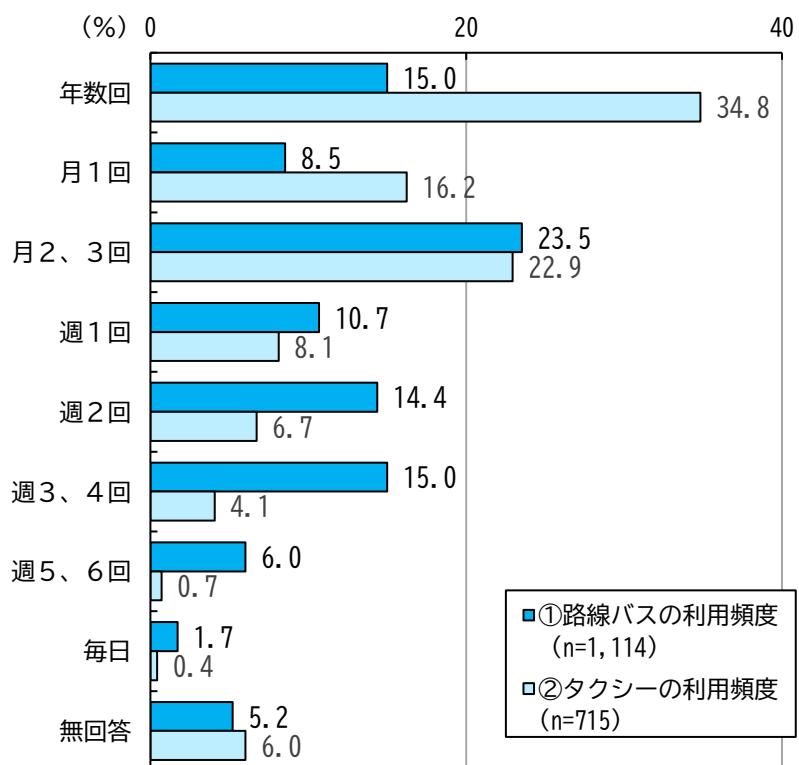
	n	徒歩	自転車	バイク	自動車 (自分で運転)	自動車 (人に乗せてもらう)	電車	路線バス	病院や施設のバス	車いす	電動車いす (カート)	歩行器・シルバーカー	タクシー	その他	無回答	
全体	2255	76.0	22.4	3.0	28.2	20.7	51.8	49.4	7.5	0.7	0.2	2.5	31.7	1.2	2.2	
閉じこもり傾向	該当 (リスクあり)	340	55.9	7.6	0.6	9.4	27.6	28.8	38.8	9.7	2.9	0.9	5.3	53.5	1.8	1.5
	非該当	1870	81.1	25.6	3.5	32.2	19.8	57.0	52.4	7.2	0.3	0.1	1.9	28.4	1.1	0.5

問2 (8) で「7. 路線バス」または「12. タクシー」を選択した方

どれくらいの頻度で利用しますか (1つに○)

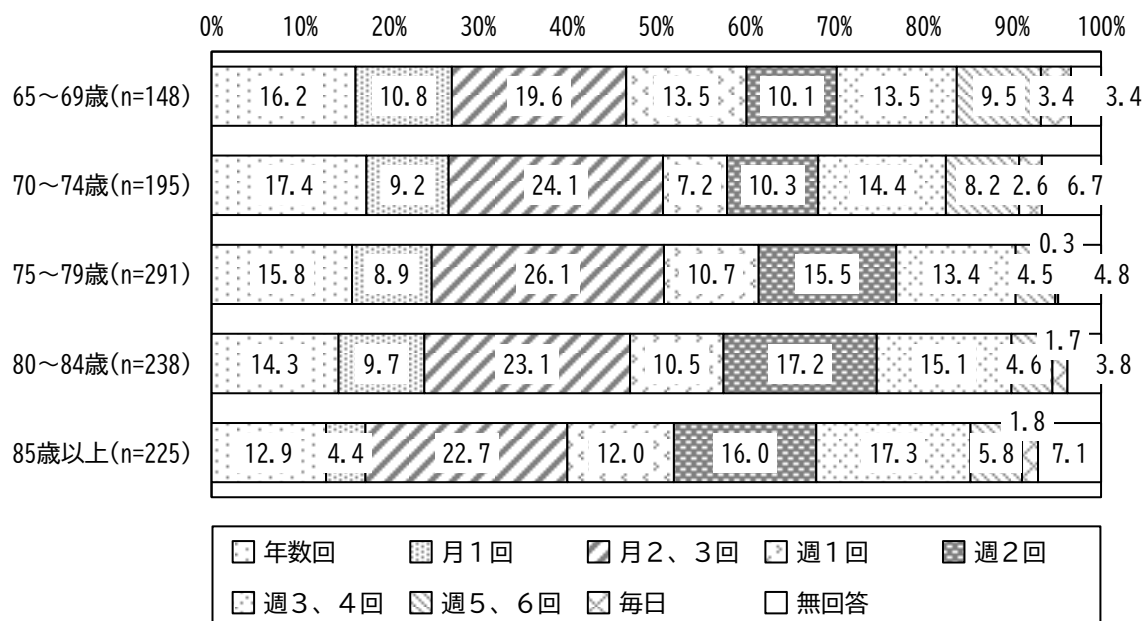
【全体】

①路線バスまたは②タクシーの利用頻度については、①路線バスでは「月2、3回」が23.5%、②タクシーでは「年数回」が34.8%と最も多くなっています。



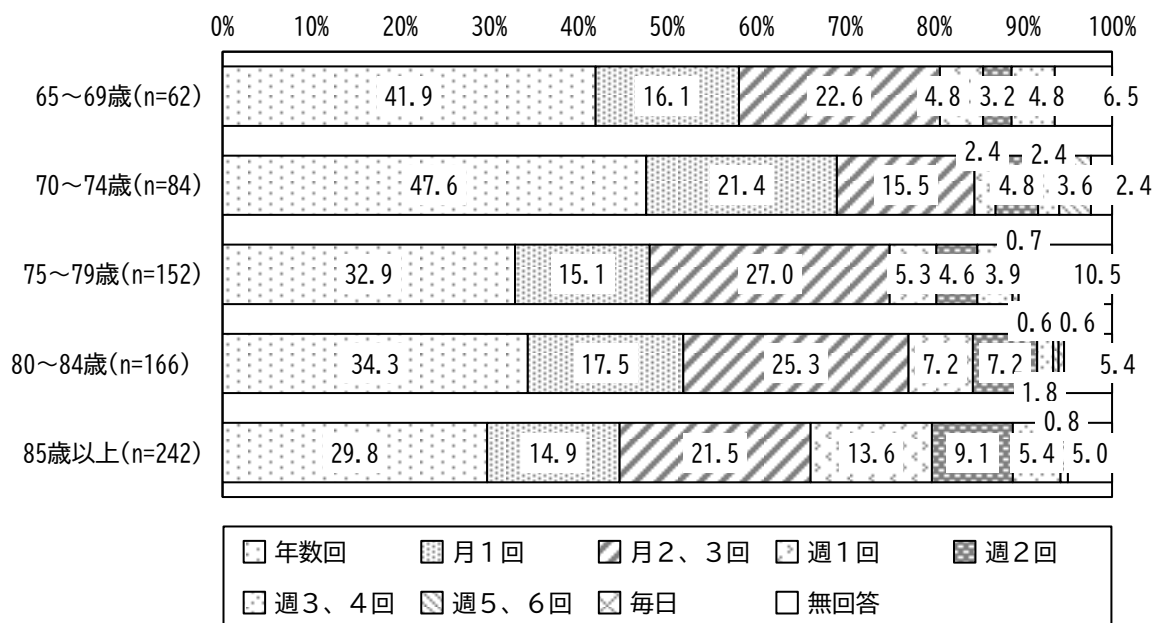
【①路線バスの利用頻度・年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて利用頻度が増加する傾向がみられます。



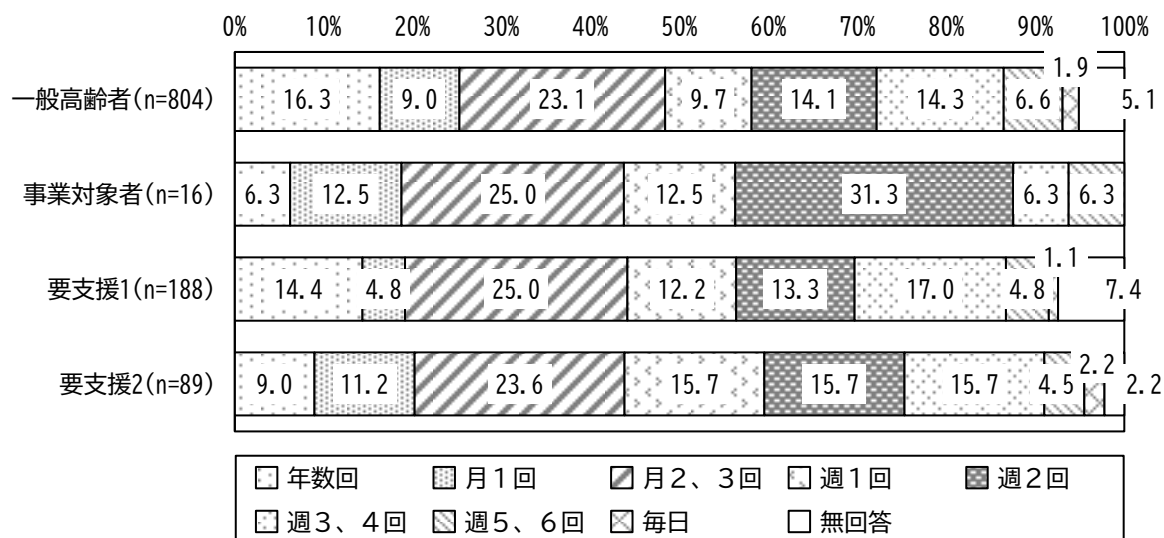
【②タクシーの利用頻度・年齢別】

年齢別にみると、85歳以上で週1回以上利用する人が28.9%となっています。



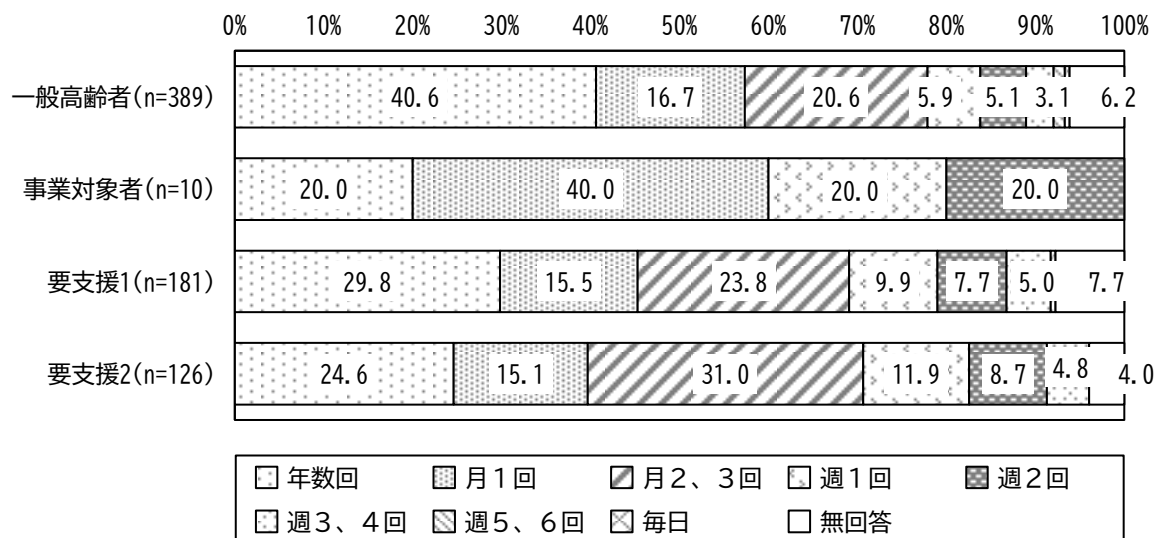
【①路線バスの利用頻度・認定状況別】

認定状況別にみると、以下の通りとなっています。



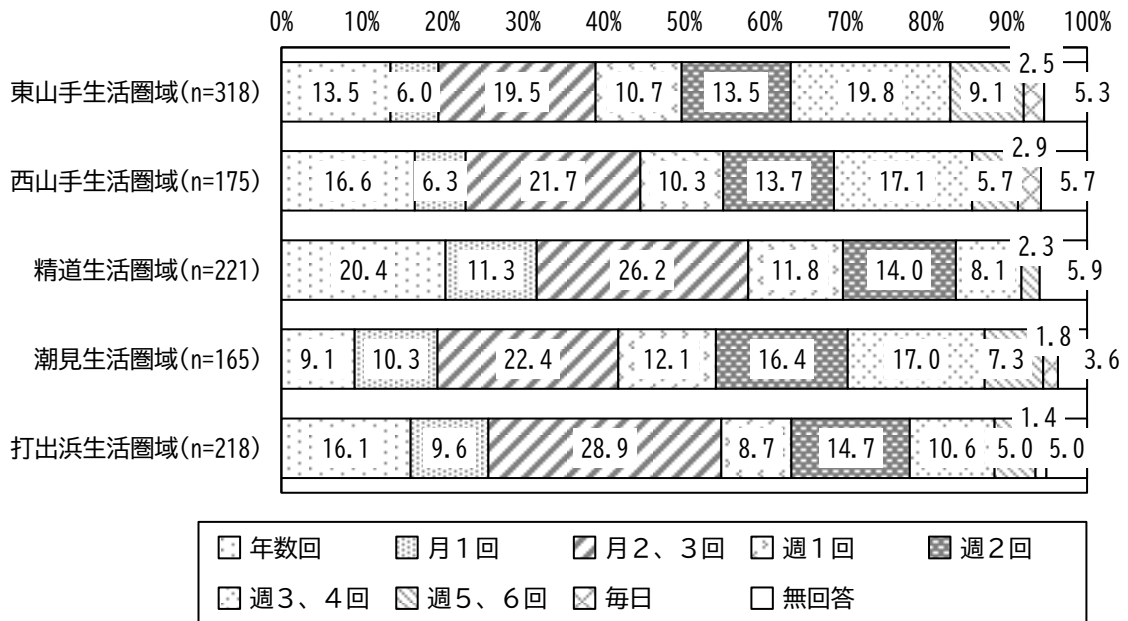
【②タクシーの利用頻度・認定状況別】

認定状況別にみると、要支援認定者で週1回以上利用する人が一般高齢者と比べて多くなっています。



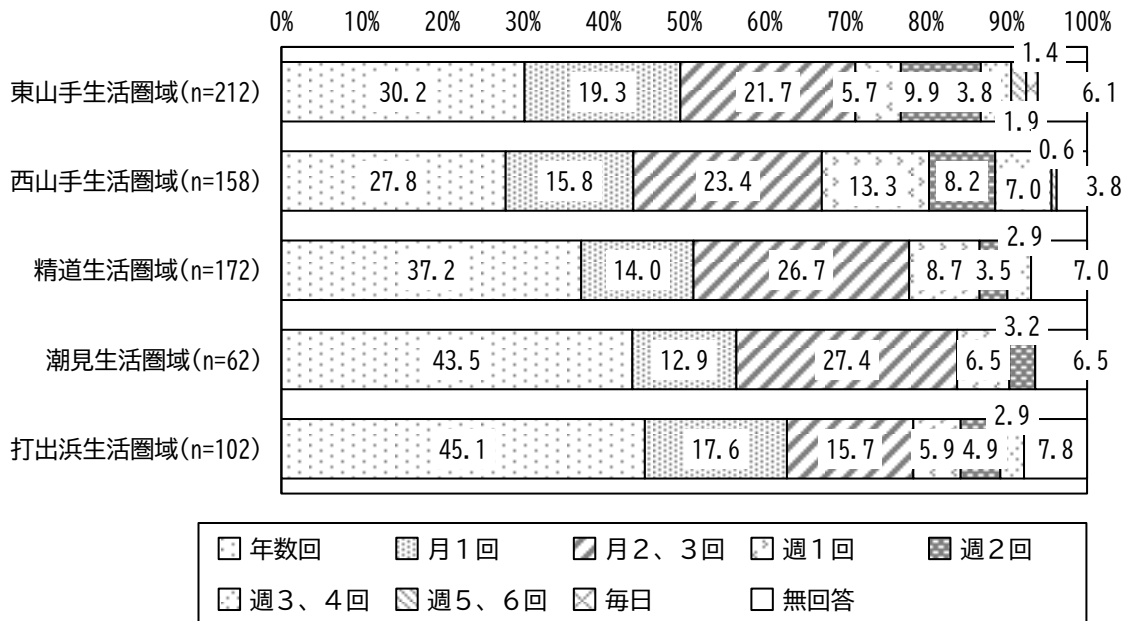
【①路線バスの利用頻度・居住地域別】

居住地域別にみると、東山手生活圏域、西山手生活圏域、潮見生活圏域では週1回以上の利用が5割以上となっています。



【②タクシーの利用頻度・居住地域別】

居住地域別にみると、西山手生活圏域では週1回以上の利用が他の生活圏域と比べてやや多くなっています。



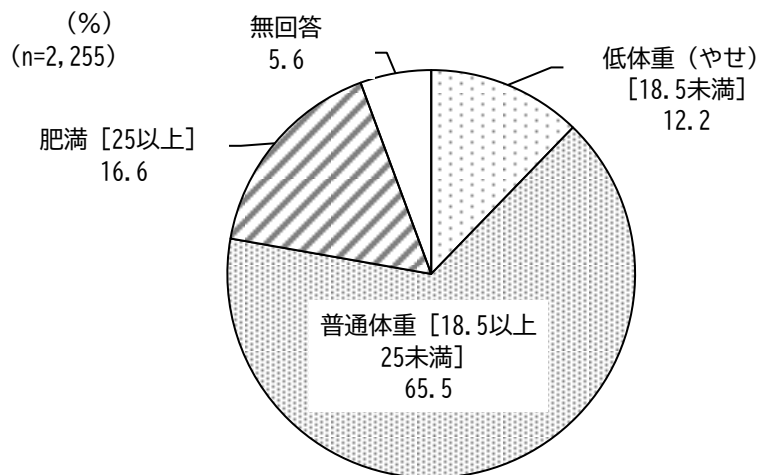
問3 食べることについて

1) BMI・低栄養

問3 (1) 身長・体重

【全体】低栄養傾向_リスク判定設問

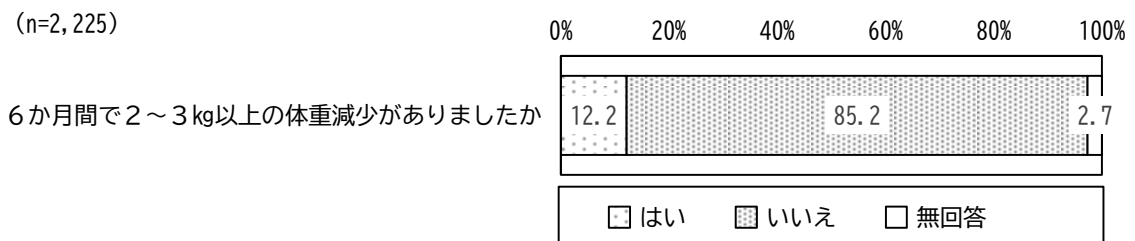
身長・体重から算出したBMI値をみると、「普通体重 [18.5以上 25未満]」が65.5%と最も多く、次いで、「肥満 [25以上]」が16.6%、「低体重 (やせ) [18.5未満]」が12.2%となっています。



問3 (2) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか

【全体】低栄養傾向_リスク判定設問

6か月間で2～3kg以上の体重減少があったかについては、「はい」が12.2%、「いいえ」が85.2%となっています。



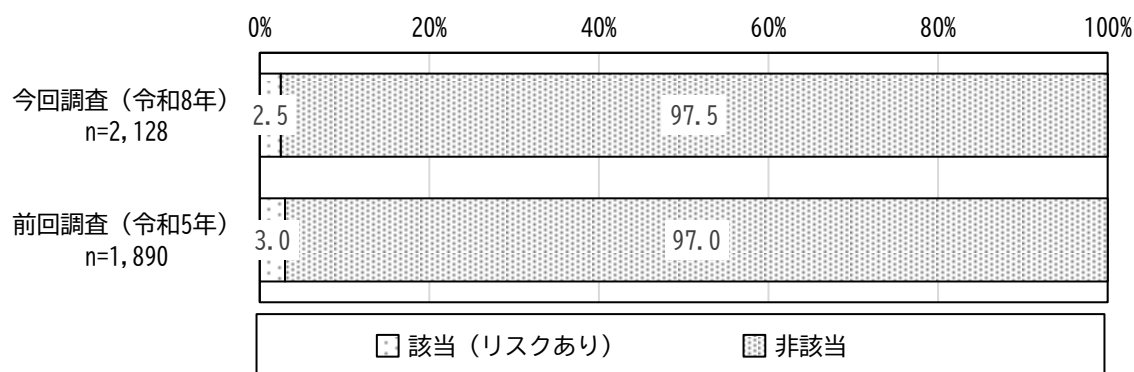
低栄養傾向_リスク判定結果

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問3	(1) 身長・体重を記入ください	BMI 18.5 未満
	(2) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい

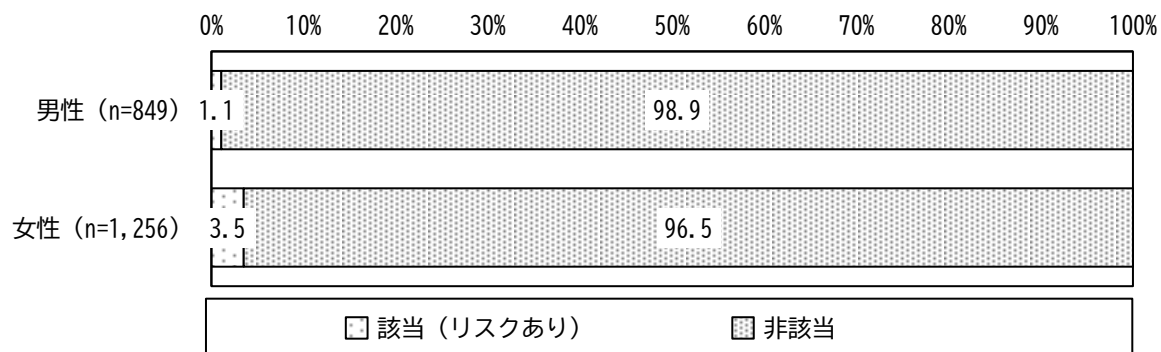
【全体】

『低栄養傾向』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は2.5%で、前回調査に比べて0.5ポイント減少しています。



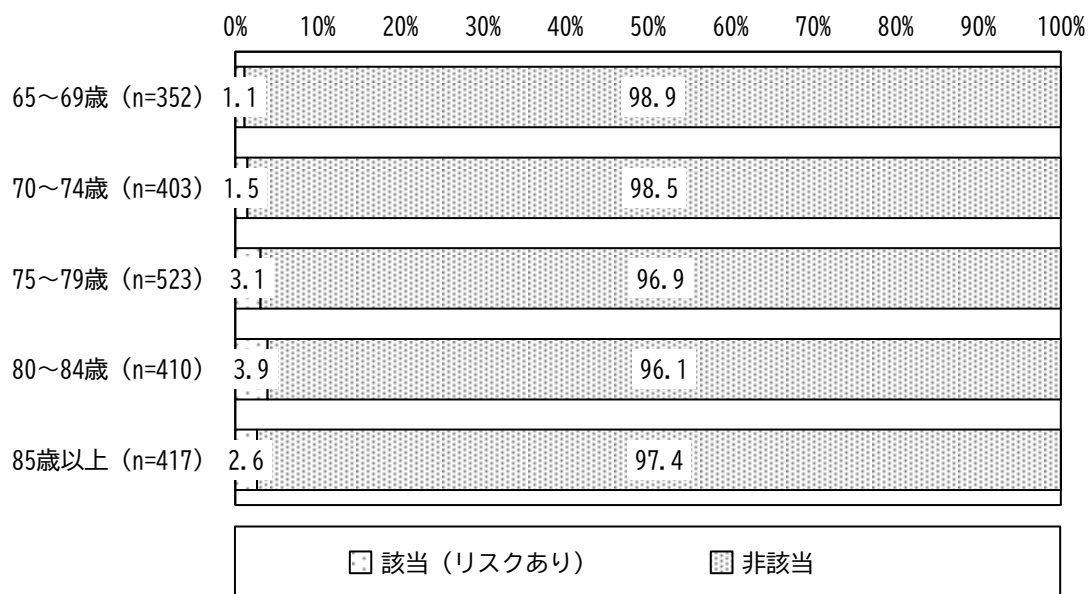
【性別】

性別にみると、該当者（リスクあり）は女性で3.5%と、男性より2.4ポイント多くなっています。



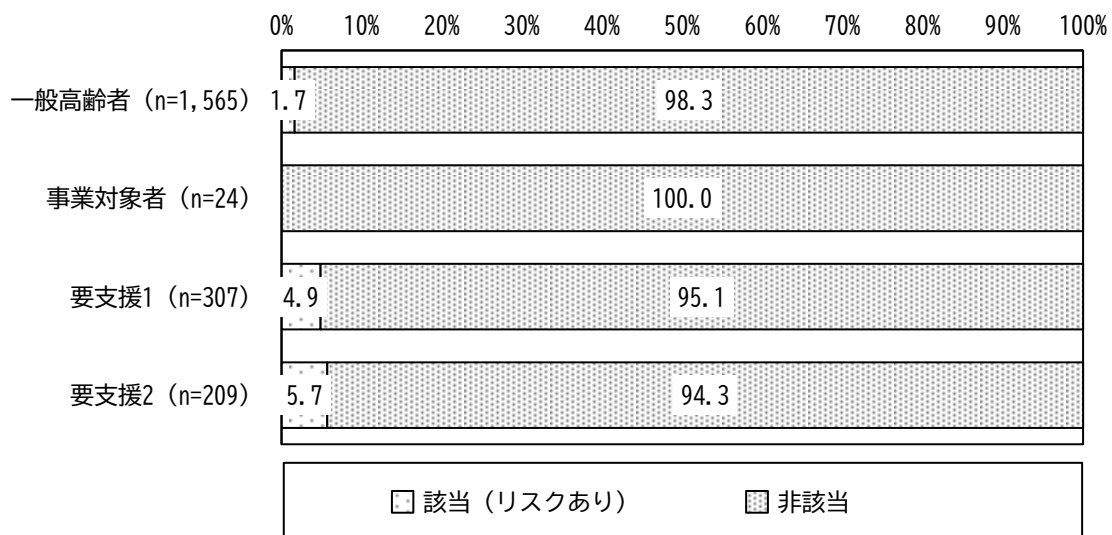
【年齢別】

年齢別にみると、該当者（リスクあり）は80～84歳で3.9%とわずかに多くなっています。



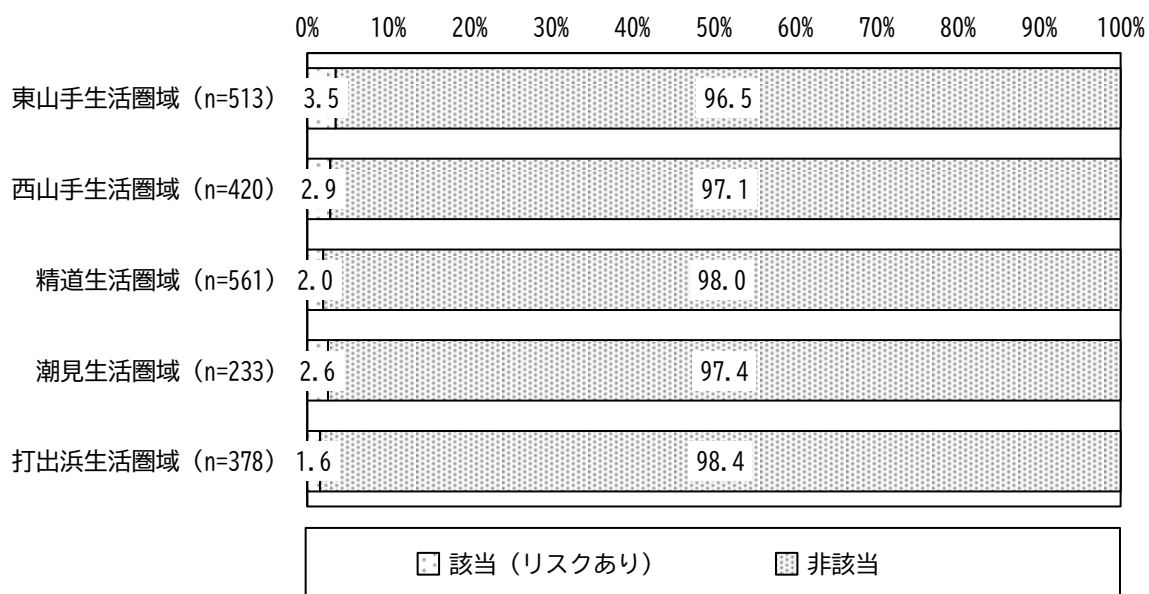
【認定状況別】

認定状況別にみると、該当者（リスクあり）は要支援1で4.9%、要支援2で5.7%とわずかに多くなっています。



【居住地域別】

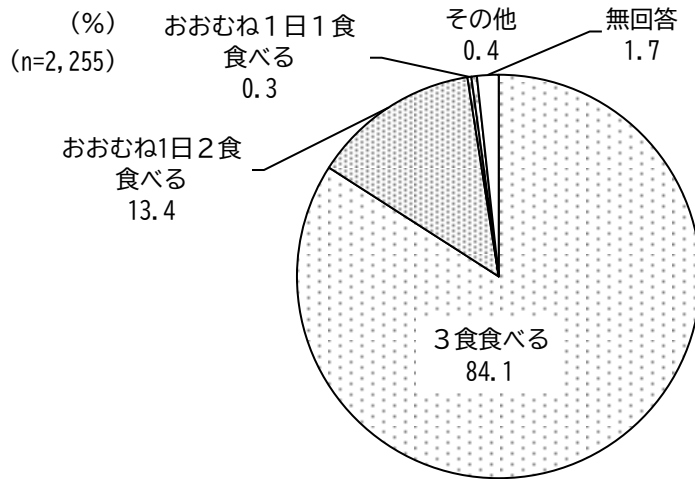
居住地域別にみると、該当者（リスクあり）は、東山手生活圏域で3.5%とわずかに多くなっています。



問3 (3) おおむね1日に3食(朝食・昼食・夕食)食べていますか(1つに○)

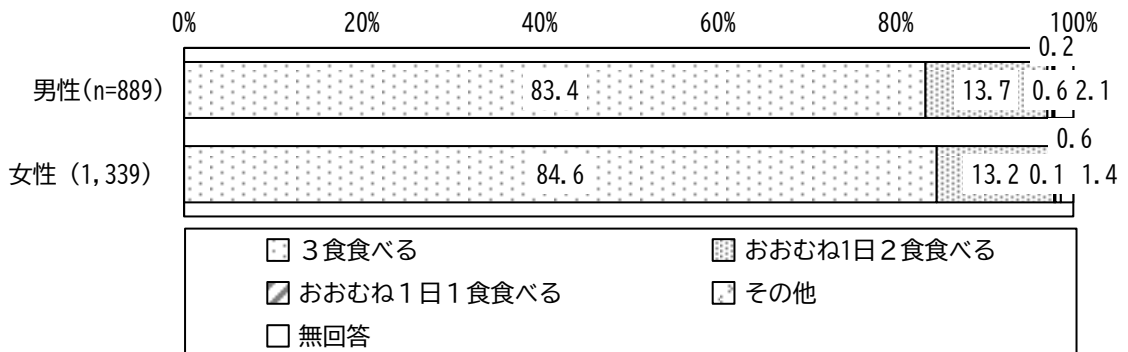
【全体】

1日に3食食べるかについては、「3食食べる」が84.1%と最も多く、次いで「おおむね1日2食食べる」が13.4%、「おおむね1日1食食べる」は0.3%となっています。



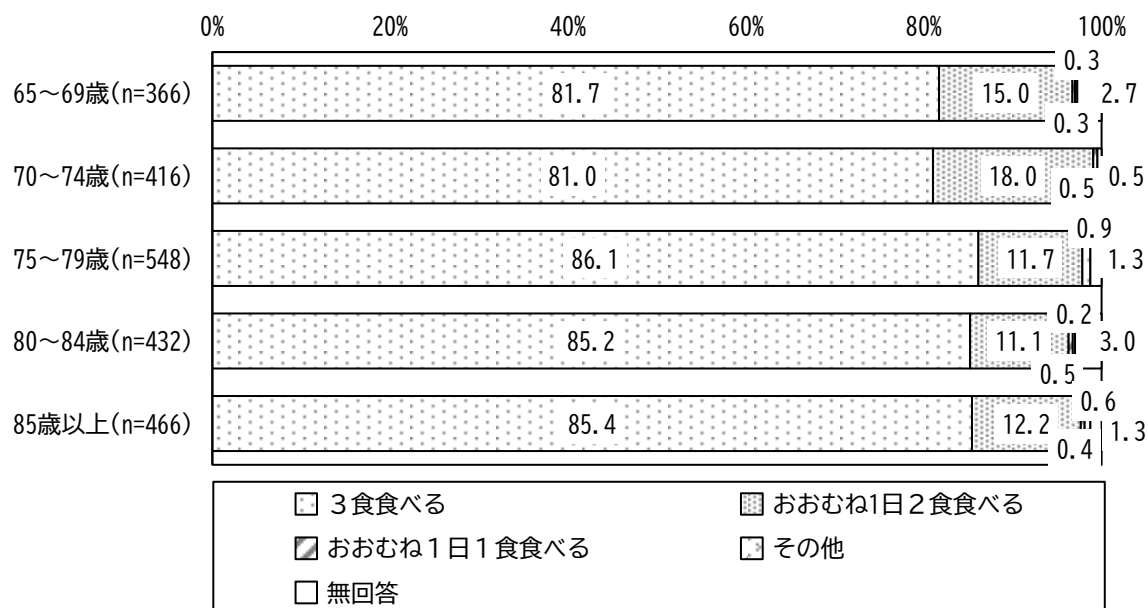
【性別】

性別にみると、以下の通り性別による大きな差はみられません。



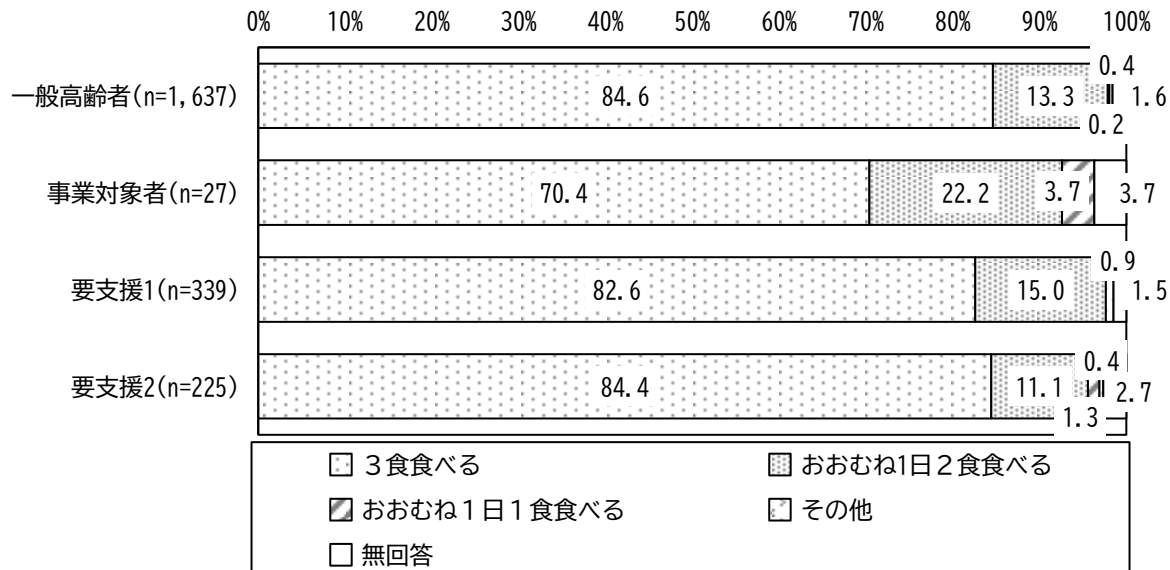
【年齢別】

年齢別にみると、前期高齢者で「おおむね1日2食食べる」がやや多くなっています。



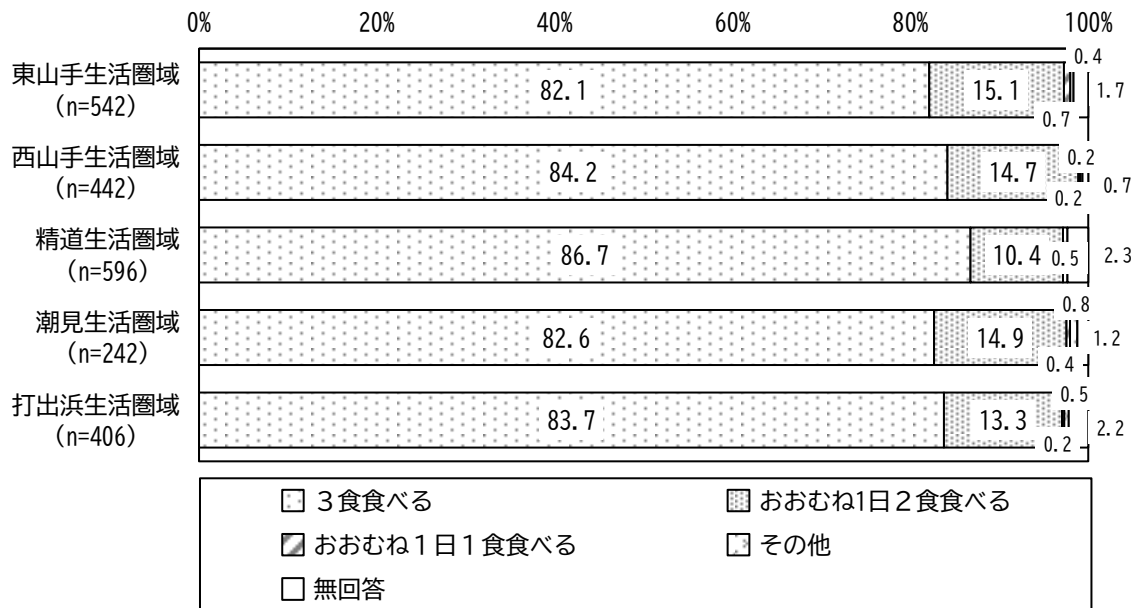
【認定状況別】

認定状況別にみると、以下の通りとなっています。事業対象者で「おおむね1日2食食べる」がやや多くなっています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、以下の通り居住地域による大きな差はみられません。



2) 口腔機能の状況

問3 (4) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか

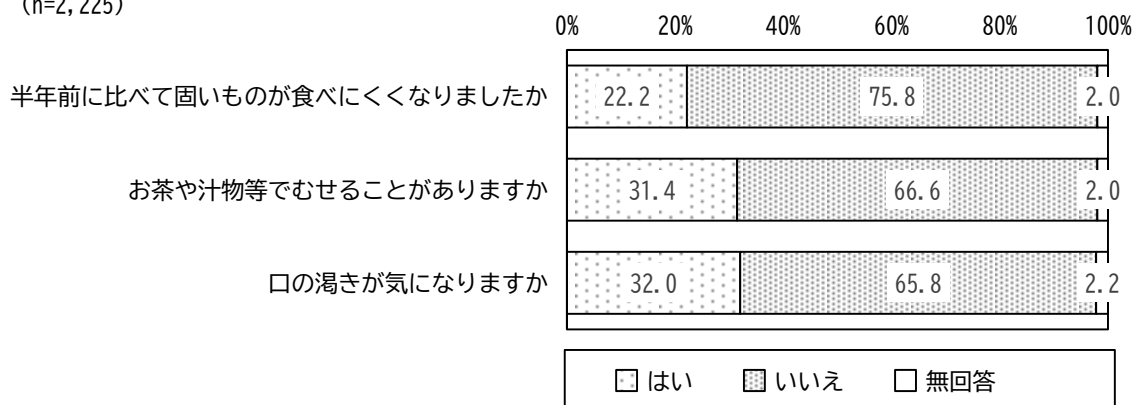
問3 (5) お茶や汁物等でむせることがありますか

問3 (6) 口の渇きが気になりますか

【全体】 口腔機能の低下_リスク判定設問

「半年前に比べて固いものが食べにくくなったか」で「いいえ」が75.8%と多くなっています。

(n=2,225)



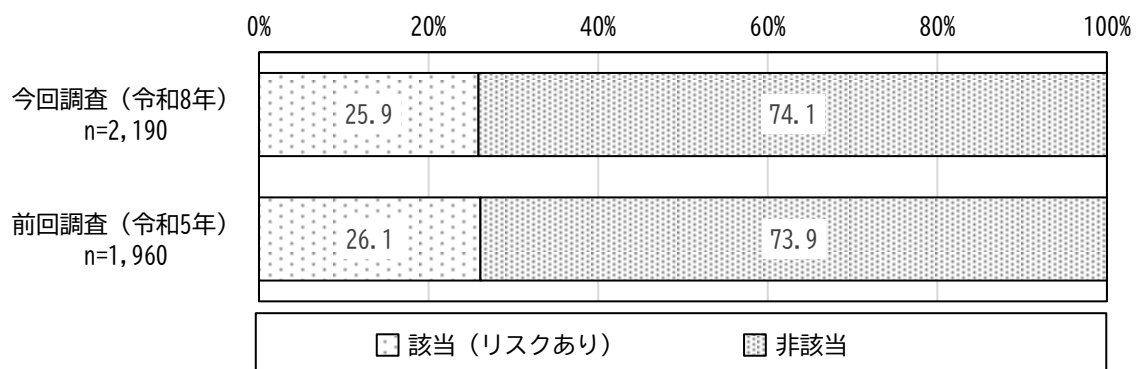
口腔機能の低下_リスク判定結果

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問3	(3) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい
	(4) お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい
	(5) 口の渇きが気になりますか	1. はい

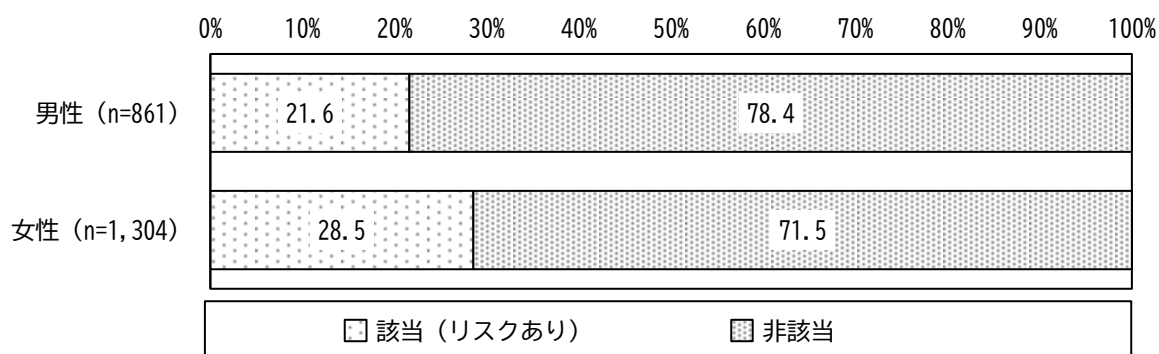
【全体】

『口腔機能の低下』の判定結果をみると、該当者（リスクあり）は25.9%で、前回調査に比べて0.2ポイント減少しています。



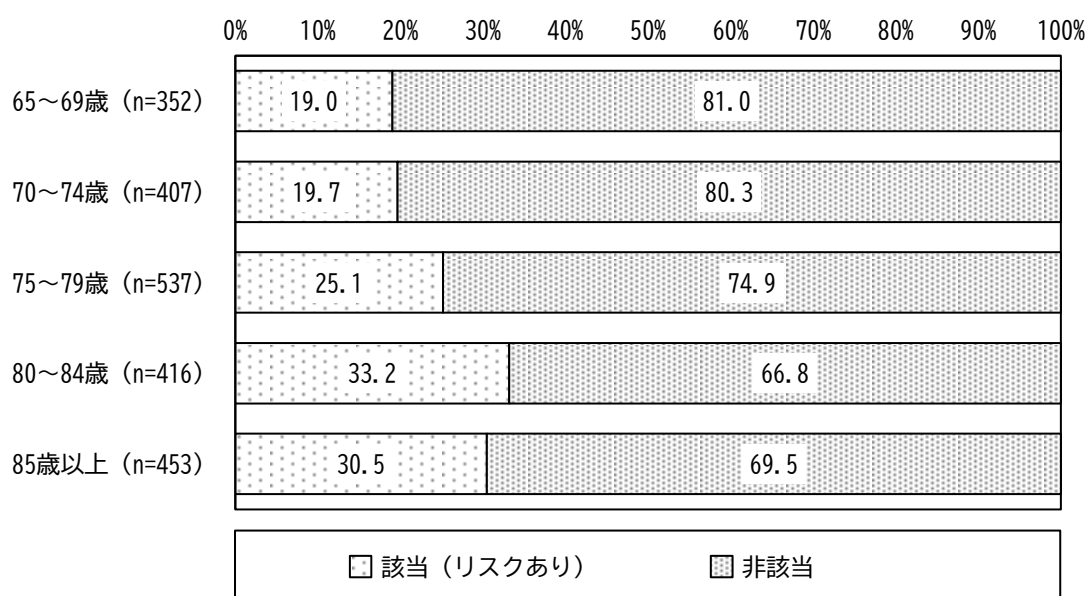
【性別】

性別にみると、該当者（リスクあり）は女性で 28.5%と、男性より 6.9 ポイント多くなっています。



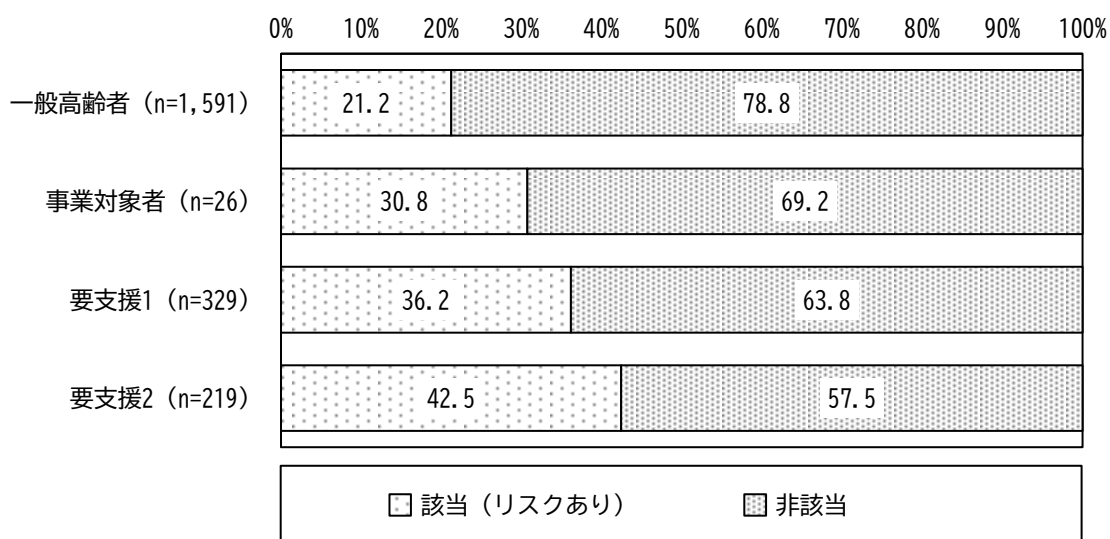
【年齢別】

年齢別にみると、該当者（リスクあり）は 84 歳までは年代が上がるほど多くなる傾向がみられ、80～84 歳では 33.2%となっています。85 歳以上ではわずかに減少し、30.5%となっています。



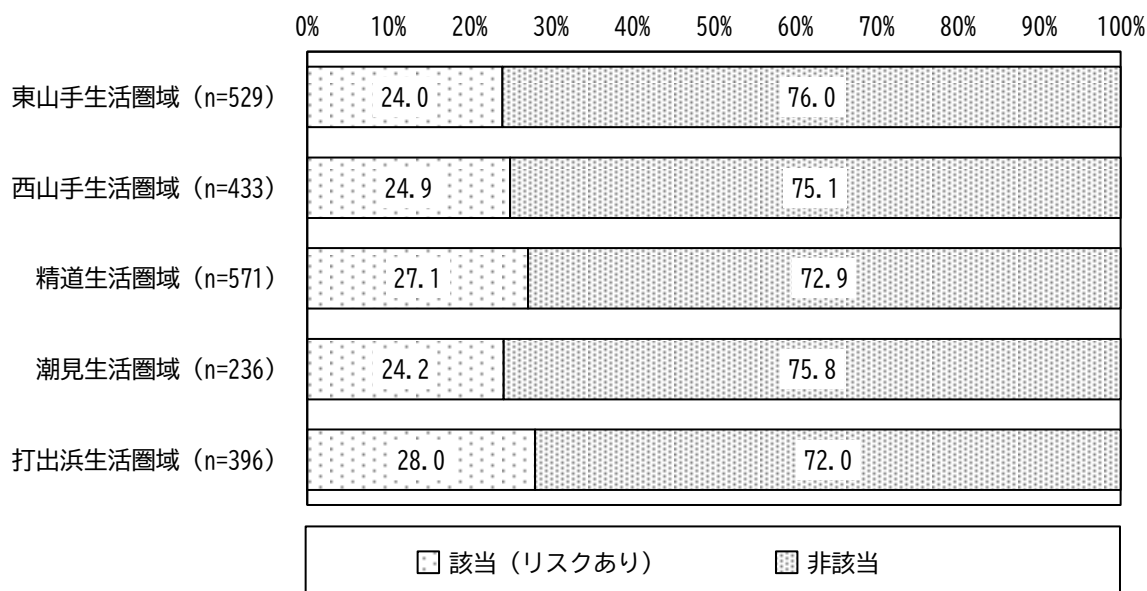
【認定状況別】

認定状況別にみると、該当者（リスクあり）は要支援2で42.5%と多く、一般高齢者と21.3ポイントの差があります。



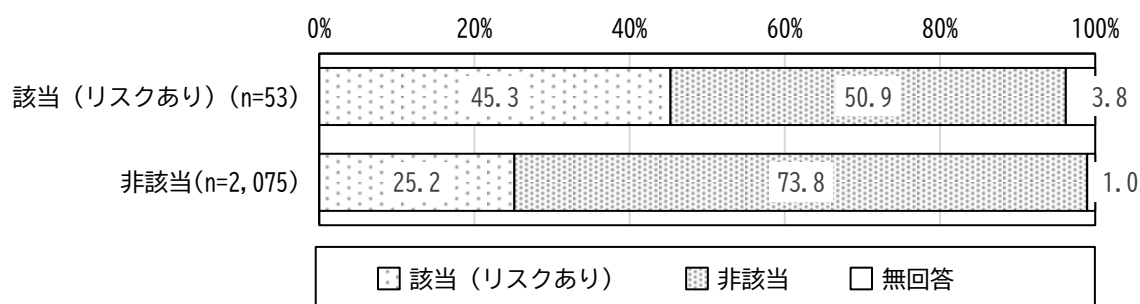
【居住地域別】

居住地域別にみると、該当者（リスクあり）は、精道生活圏域、打出浜生活圏域で3割弱とわずかに多くなっています。



【低栄養傾向のリスク別】

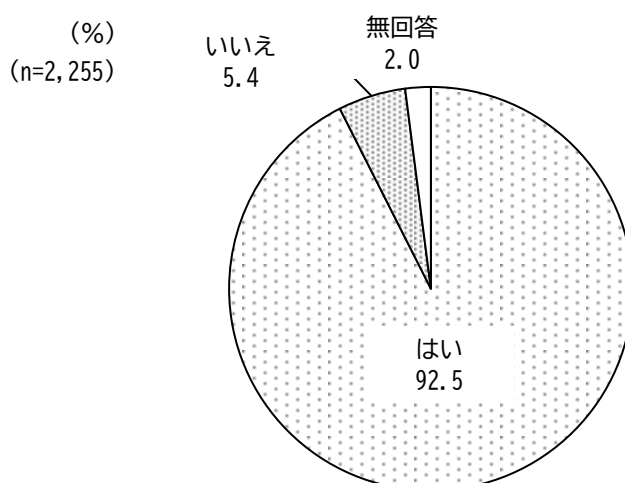
低栄養傾向のリスク別にみると、該当者（リスクあり）は、低栄養傾向のリスク該当者で非該当者より 20.1 ポイント多くなっています。



問3 (7) 歯磨き (人にやってもらう場合も含む) を毎日していますか

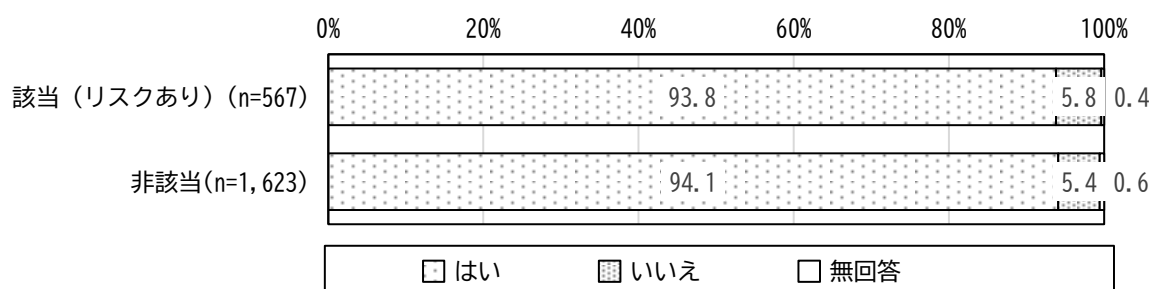
【全体】

歯磨きを毎日しているかについては、「はい」が 92.5%、「いいえ」が 5.4%となっています。



【口腔機能の低下リスク別】

口腔機能の低下リスク別にみると、以下の通り大きな差はみられません。

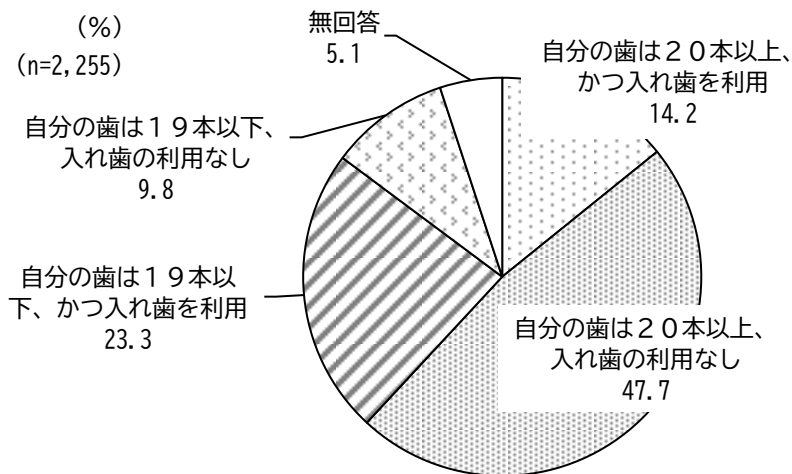


問3（8）歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください（1つに○）

※成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です

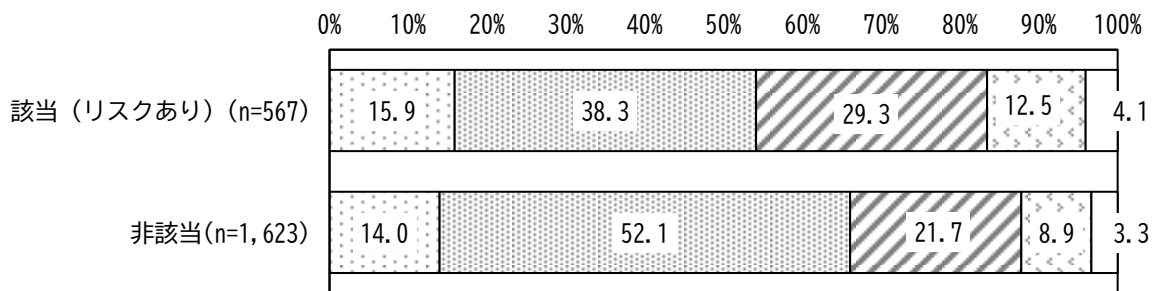
【全体】

歯の数と入れ歯の利用状況については、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が47.7%と最も多く、次いで、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が23.3%、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が14.2%、「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」が9.8%となっています。



【口腔機能の低下リスク別】

口腔機能の低下リスク別にみると、リスク該当者では「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」の割合が非該当者より7.6ポイント多くなっています。

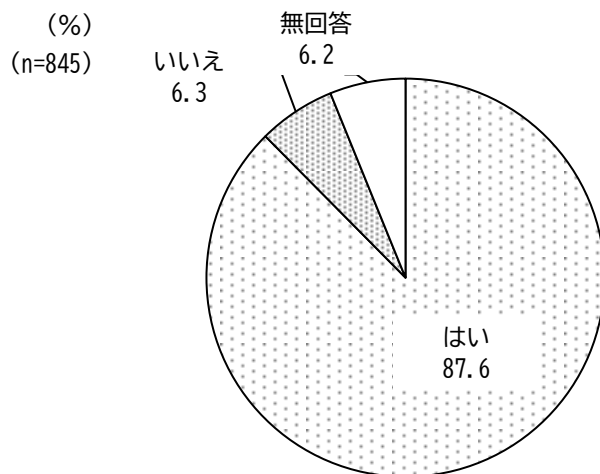


- 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用
 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし
- 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用
 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし
- 無回答

問3 (8) 毎日入れ歯の手入れをしていますか

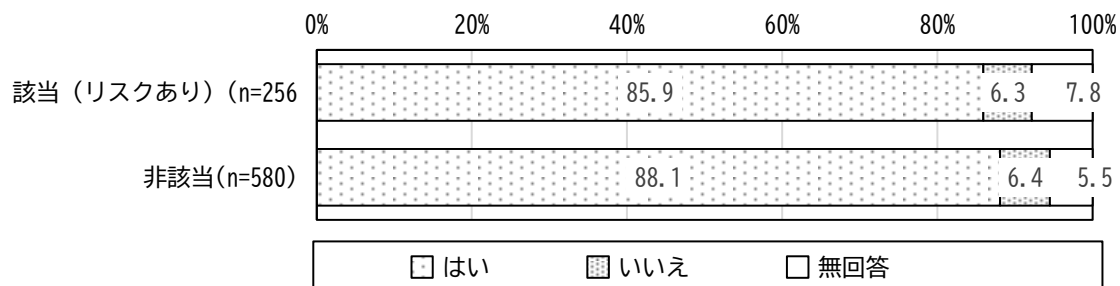
【全体】

毎日入れ歯の手入れをするかについては、「はい」が87.6%、「いいえ」が6.3%となっています。



【口腔機能の低下リスク別】

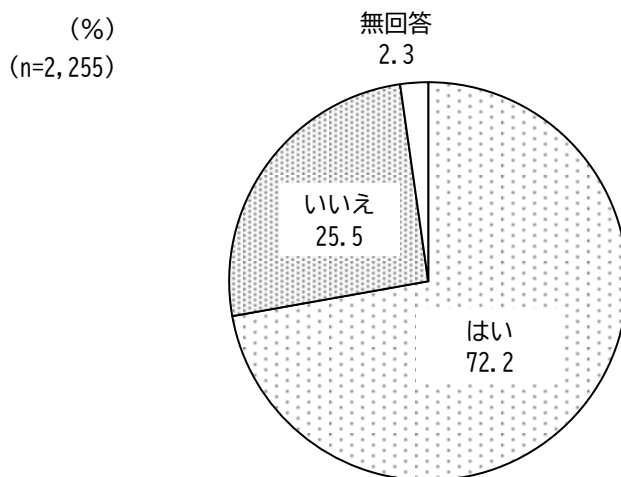
口腔機能の低下リスク別にみると、以下の通り大きな差はみられません。



問3 (9) 歯の定期検診や歯科医への通院をしていますか

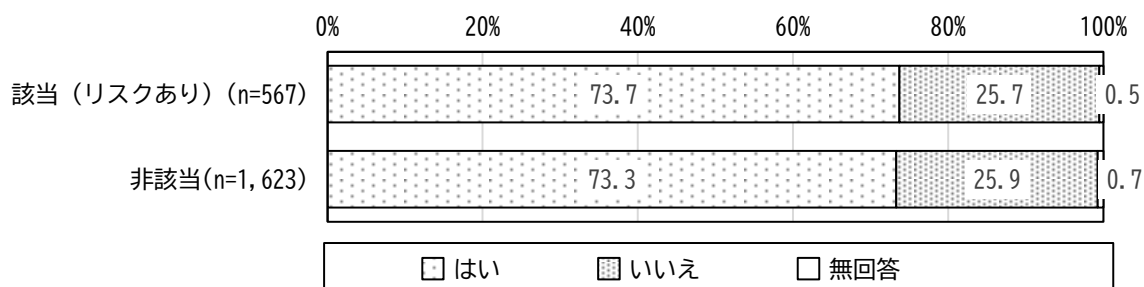
【全体】

歯の定期検診や歯科医への通院をしているかについては、「はい」が72.2%、「いいえ」が25.5%となっています。



【口腔機能の低下リスク別】

口腔機能の低下リスク別にみると、以下の通り大きな差はみられません。

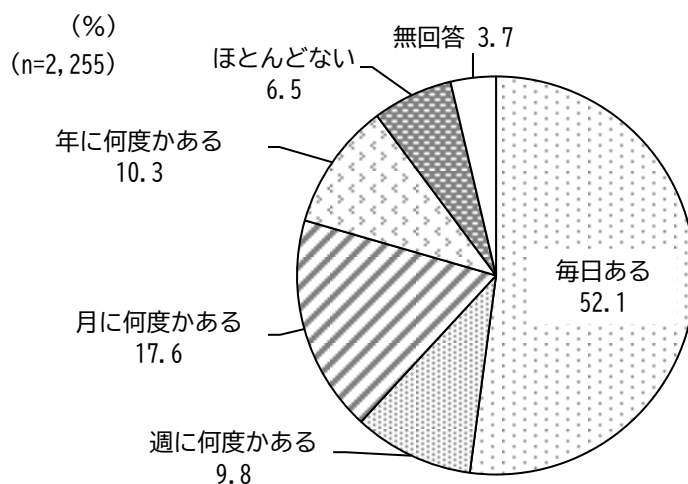


3) 共食の状況

問3 (10) どなたかと食事をとる機会がありますか (1つに○)

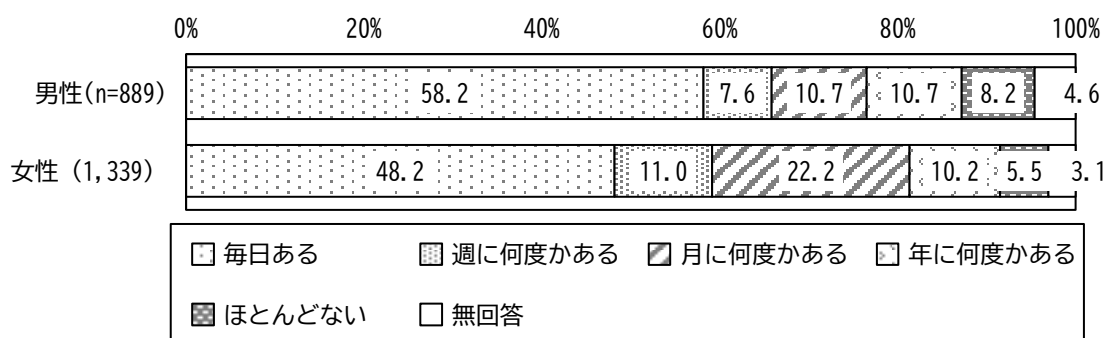
【全体】

共食の状況については、「毎日ある」が52.1%と最も多く、次いで、「月に何度かある」が17.6%、「年に何度かある」が10.3%、「週に何度かある」が9.8%、「ほとんどない」が6.5%となっています。



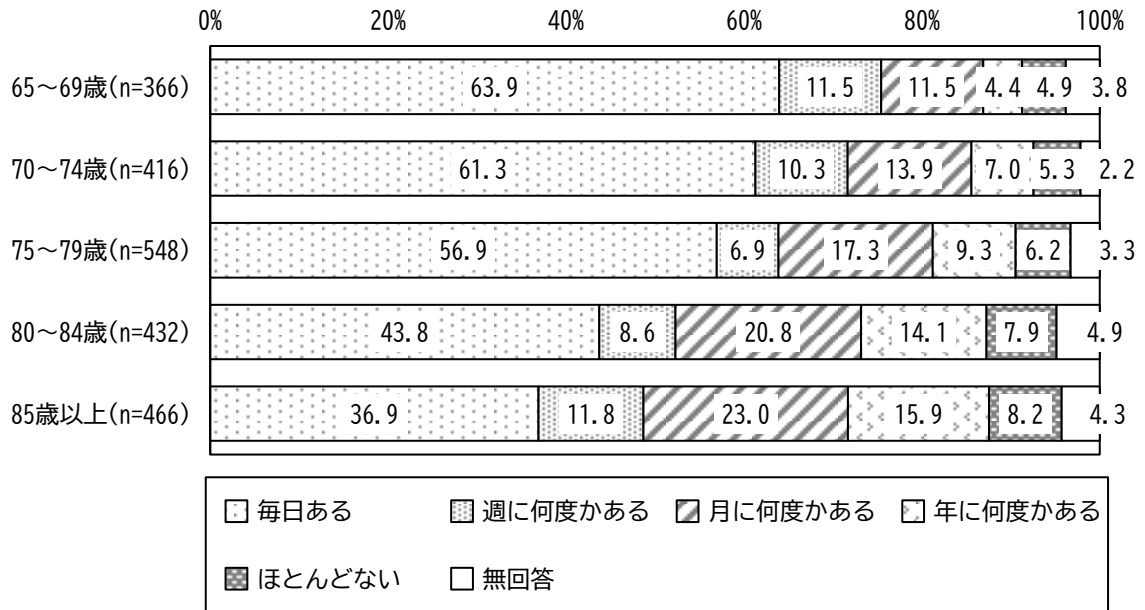
【性別】

性別にみると、男性の方が「毎日ある」が10ポイント多くなっていますが、「ほとんどない」も8.2%とやや多くなっています。



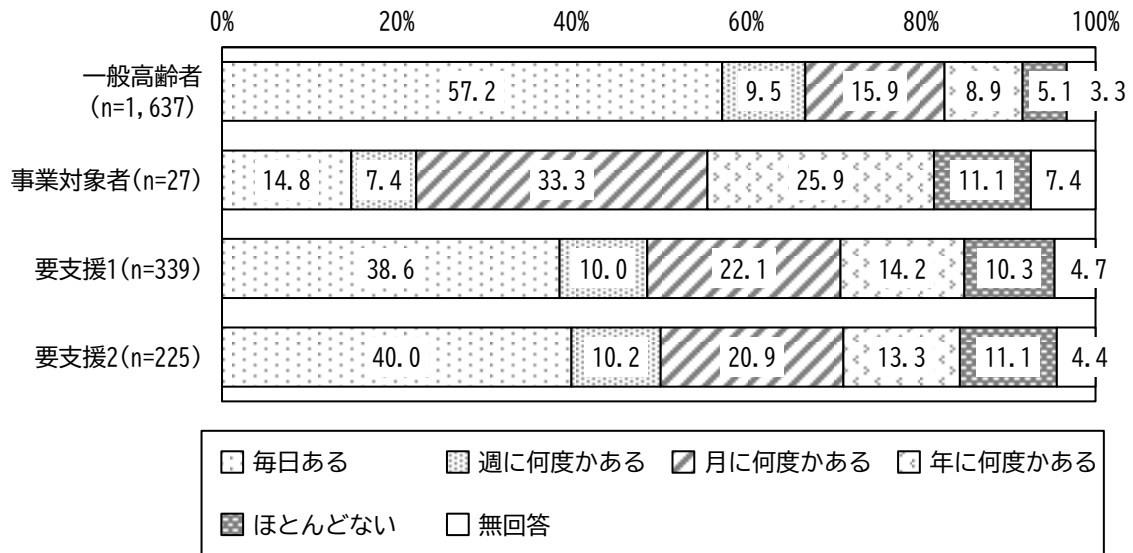
【性別】

年齢別にみると、年齢が上がるにつれて共食の機会が少なくなっていることがうかがえます。



【認定状況別】

認定状況別にみると、要支援認定者、事業対象者では、「毎日ある」の割合が一般高齢者に比べて少なくなっています。



【居住地域別】

居住地域別にみると、潮見生活圏域では、「毎日ある」の割合が他の生活圏域に比べて少なくなっています。

